

# osmose ce ユーザーマニュアル

osmose 49 ce / osmose 61ce



## 目次

はじめに.....	5
安全上の注意.....	6
<b>オーバービュー.....</b>	<b>8</b>
ご使用になる前にご確認ください.....	8
同梱物.....	8
Osmose CE への電源供給.....	8
キーボードのキャリブレーション.....	8
キーベッドの長寿命化.....	8
デバイスの登録.....	8
ファームウェアアップデート.....	9
お役立ち動画.....	10
概要動画.....	10
DAW コントロールの紹介ビデオ.....	10
ハードウェア概要.....	11
拡張キーボードアクション.....	11
リアパネル.....	12
フロントパネル.....	13
Osmose CE の MIDI ポート.....	14
コントロールインターフェースオーバービュー.....	15
メインコントロールインターフェース.....	15
ナビゲーションの基本操作.....	16
<b>メインメニュー.....</b>	<b>17</b>
メインメニューオーバービュー.....	17
<b>External MIDI モード.....</b>	<b>18</b>
External MIDI モードの概要.....	18
MIDI ポートに関する注意事項.....	18
MPE について.....	18
後方互換性.....	19
config メニュー.....	20
ナビゲーションタブ.....	20
save タブ.....	22
adjust メニュー.....	23
gestures タブ.....	23
controllers タブ.....	24

mode タブ .....	25
セットアップ例 .....	25
sensitivity メニュー .....	28
bending タブ .....	28
velocity/press タブ .....	30
aftertouch タブ .....	31
sensitivity 設定の固定 .....	31
Playing メニュー: イントロダクション .....	32
expressive arpeggiator(エクスペッシブアルペジエーター) .....	32
choose タブ .....	33
adjust タブ .....	34
assign タブ .....	36
save タブ .....	37
pressure glide(プレッシャーグライド) .....	38
<b>DAW コントロールモード .....</b>	<b>39</b>
DAW の設定 .....	39
Ableton Live .....	39
Bitwig Studio .....	41
Cubase .....	43
Logic Pro .....	44
DAW コントロールモードの概要 .....	45
トランスポートパネルと DAW の統合 .....	46
トランスポートパネルを開く .....	46
トランスポートパネルの概要 .....	47
1 - 再生ヘッドとループのマネージメント .....	48
2 - 再生ヘッドとループの管理 .....	49
3 -トラック、シーン、クリップのナビゲーション .....	50
4 - ボリューム、パン、ミュート、ソロ、センド 1 / センド 2 .....	51
下部のアクションバー .....	52
macro(マクロ) .....	53
追加機能 .....	55
Ctrl+Eトラックでの DAW コントロールの使用 .....	57
Ctrl+E インテグレーションの概要 .....	57
preset メニュー .....	60
macros メニュー .....	62
Ctrl-E sensitivity メニュー .....	63

通常のトラックで DAW コントロールを使用する場合 .....	64
<b>settings</b> .....	<b>65</b>
settings 概要 .....	65
workflow タブ .....	65
hardware タブ .....	66
midi i/o タブ .....	67
Info タブ .....	68
Calibration タブ .....	68
pedal calibration(ペダルキャリブレーション) .....	69
互換性と推奨事項 .....	69
キャリブレーションの手順 .....	70
リソース .....	72
<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>73</b>
DAW スクリプト .....	73
Ableton Live .....	73
bitwig .....	74
Cubase .....	75
logic pro .....	77
トラブルシューティングに関するナレッジベース .....	77

## はじめに

Osmose CE をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

Osmose CE(コントローラーエディション)は、ハードウェアおよびソフトウェアシンセサイザーを比類のない表現力でコントロールするために設計された、次世代 MIDI/MPE コントローラーです。Expressive E 独自の特許取得済みキーベッド機構を搭載し、ポリフォニックプレッシャー、アフタータッチ、ノートベンドに対応することで、自然でレスポンスの良い演奏体験を実現します。

直感的なコンパニオンアプリ「Ctrl-E」と組み合わせることで、Osmose CE は、業界をリードするサウンドエンジンと Expressive E 独自のバーチャルインストゥルメントによって生み出された、厳選された表現力豊かなサウンドを提供します。Expressive E のサウンドデザインチームが精巧に作り上げた数百ものプリセットを、箱から出してすぐに演奏できます。

### 免責事項

Expressive E および 株式会社フックアップは可能な限り、本マニュアルに記載しているすべての情報を信頼できるものとして記載することに努めていますが、その正確性を保証するものではありません。また、アップデートにより本製品および本マニュアルの記載内容は予告なく変更する場合があります。Universal Audio および株式会社フックアップは、現地法律による請求なしに本マニュアルにおける責務を拡張しません。なお、本マニュアルは、製造者の同意なく、いかなる場合においても、形式を問わずそのすべてあるいは一部を転載、複製することはできません。

### 株式会社フックアップ

東京都台東区上野 1-2-2 信井ビル別館 3F

Expressive E 製品に関する詳細または最新情報はウェブサイトに記載しております：

<https://hookup.co.jp/products/expressive-e>

## 安全上の注意

### 警告

●火災や感電の危険を減らすため、本製品を雨や湿気にさらさないでください。液体が入った物を本製品の上に置かないでください。

●動作電圧: USB Power Delivery 5V DC、最小電流 3.0A、62368-1 規格に準拠した ES1/PS2 電源アダプターから供給します。本モデルは 35°C までの動作温度に対応しています。

●製品マニュアルに具体的な指示が記載されている場合、または当社のアフターサービスから正式に許可されている場合を除き、ユニットを開けたり、修理したり、内部の部品を交換したりしないでください。

- ・ 振動が激しい場所や極端な温度の場所(例: 密閉された車内、暖房ダクト付近、発熱機器の上など)、湿気が多い場所(例: 浴室、洗面所、濡れた床など)、雨天時、または埃の多い場所では、本機を使用または保管しないでください。
- ・ 雷の発生が予想される場合、近くでガス漏れが発生した場合、または長期間使用しない場合は、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 磁場の近くで本機を使用しないでください。
- ・ 本機の上に乗ったり、重い物を置いたりしないでください。
- ・ 本機の隙間に指や手を入れないでください。パネルやキーボードの隙間に紙、金属片、その他の物を差し込んだり、落としたりしないでください。怪我や他者への危害、本機やその他の財産の損傷、または動作不良の原因となる可能性があります。Expressive E は、不適切な使用や改造によって生じた損害、またはデータの損失や破損について一切責任を負いません。
- ・ メーカー指定の付属品のみを使用してください。本機は、取扱説明書に記載されている、または本機本体に表示されている種類の電源にのみ接続してください。
- ・ 電源コードを過度にねじったり曲げたりしないでください。また、重い物を上に置かないでください。コードが損傷し、断線やショートの原因となります。損傷したコードは火災や感電の危険があります。
- ・ コンセントや本機への抜き差しの際は、濡れた手で電源コードやプラグを扱わないでください。
- ・ 本機は、アンプ、ヘッドホン、またはスピーカーと組み合わせると、永久的な難聴を引き起こす可能性のある音量を発生する場合があります。長時間、大音量で使用したり、不快な音量で使用したりしないでください。難聴や耳鳴りなどの症状が現れた場合は、直ちに本機の使用を中止し、聴覚専門医または耳鼻咽喉科医にご相談ください。
- ・ 小さなお子様がいるご家庭では、お子様が本機の安全な操作に必要なすべてのルールを守れるようになるまで、大人が監督してください。
- ・ 楽器のステレオ出力のオン/オフ切り替え時に、音量がピークになることがあります。切り替える前に、すべてのスピーカーとヘッドホンの音量を下げておくことをお勧めします。
- ・ 傷や破損を防ぐため、機器本体や画面に鋭利なものを使用しないでください。液晶画面に圧力をかけないでください。

- ・ 電源コードを他の機器と無理にコンセントに差し込まないでください。延長コードを使用する場合は特に注意してください。
- ・ 機器を清掃する前に、電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。清掃には、柔らかく乾いた布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン油、その他の有機溶液は使用しないでください。また、液体クリーナー、スプレー、または濡れすぎた布も使用しないでください。
- ・ 延長コードのコンセントに接続しているすべての機器の合計消費電力は、延長コードの定格電力(ワット/アンペア)を超えないようにしてください。過負荷は、コードの絶縁体を加熱し、最終的に溶断させる可能性があります。
- ・ 以下のいずれかの問題が発生した場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、Expressive E のサービス担当者に機器の点検を依頼してください。
  - ・ 電源コードやプラグが擦り切れたり、破損したりしている。
  - ・ 異臭や煙が出る。
  - ・ 機器が雨や湿気にさらされた。
  - ・ 機器を落とした。
  - ・ 機器の中に異物が入った。
  - ・ 機器に液体がこぼれた。
  - ・ 機器の使用中に突然音が途切れる。
- ・ 本機を開けたり、修理したり、内部の部品を交換したりしないでください(ただし、このマニュアルに具体的な指示がある場合、または当社のアフターサービス部門から許可されている場合を除く)。

### 消費者の皆様への重要なお知らせ

本製品は、使用予定国における厳格な仕様および電圧要件に基づいて製造されています。インターネット、通信販売、または電話販売を通じて本製品をご購入された場合は、お客様の居住国で本製品が使用可能であることをご確認ください。

**警告:** 本製品を本来の使用国以外で使用すると、危険な場合があります。製造元または販売代理店の保証が無効になる場合があります。また、購入証明として領収書を保管してください。領収書がない場合、製造元または販売代理店の保証対象外となる場合があります。

### 廃棄に関する注意事項



製品、取扱説明書、または電源装置にこの「×印の付いた車輪付きゴミ箱」のシンボルが表示されている場合、本製品、取扱説明書、または電源装置を廃棄する際は、承認された方法で廃棄する必要があります。本製品、取扱説明書、または電源装置を通常の家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。

# オーバービュー

## ご使用になる前にご確認ください

### 同梱物

Osmose CE エクスプレッシブ MPE/MIDI コントローラー x 1、クイックスタートガイド(登録コード付き)x 1、製品安全マニュアル x 1(Osmose CE をご使用になる前に必ずお読みください)、USB Type-C ケーブル x 1

### Osmose CE への電源供給

Osmose CE には電源アダプターは付属していません。お使いのコンピューターに USB Type-C ポートがある場合は、同梱のケーブルを使用してデータと電源の両方を供給できます。USB ホストデバイス(コンピューター)に USB 2.0 ポートしかない場合、またはデバイスをスタンドアロンで使用する場合は、USB Type-C スマートフォン充電器などの USB 電源アダプター(別売)から電源を供給する必要があります。Osmose CE の専用 USB Type-C 電源入力ポートに接続してください。正しいポートは[リアパネル](#)をご覧ください。USB MIDI/データ転送には、USB Type-C ホストデバイス(コンピューター)への USB Type-C ケーブル(別売)が必要です。

・Osmose CE への給電には、最大 100W までの USB Type-C 充電器をご使用いただけます。

### キーボードのキャリブレーション

Osmose CE のキーの静止位置は、本体の起動中にキャリブレーションされます。この間、キーに何も触れないようにしてください。

### キーベッドの長寿命化

[拡張キーボードアクション](#)の独特な打鍵感は、主に各キーの下にあるシリコンシリンダーによって実現されています。この素材は劣化することなく長年使用できるように設計されていますが、シリンダーが押された後、常に元の非圧縮状態に戻ることを確認してください。

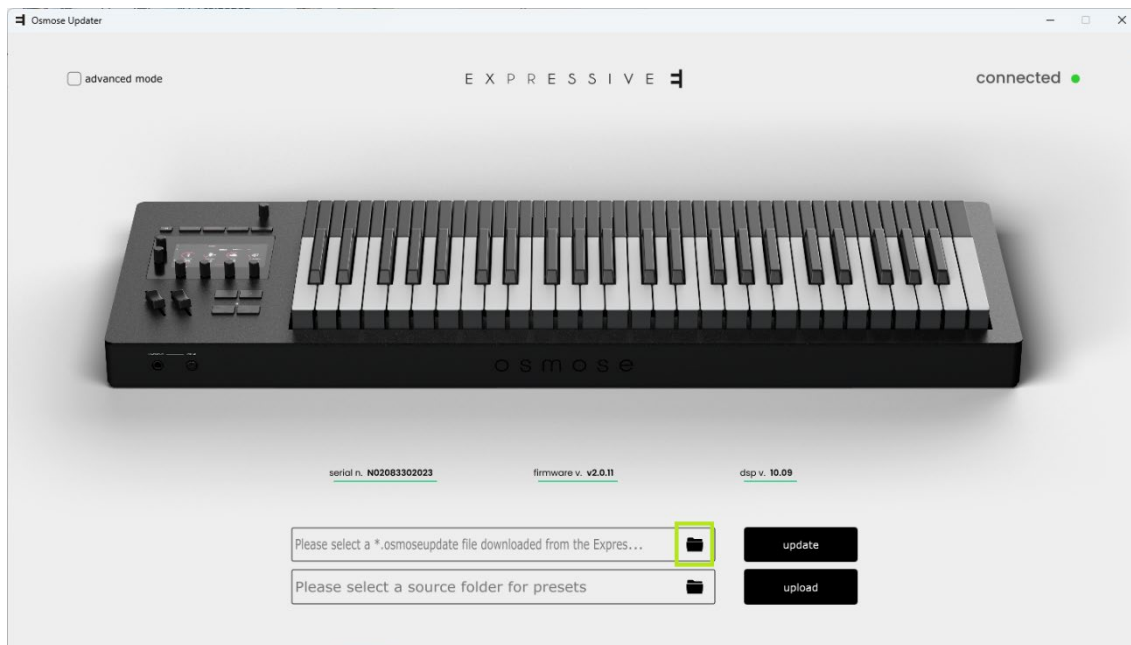
👉 Osmose をキーが常に圧縮された状態で保管しないでください。シリンダーの弾力性が失われ、交換が必要になる恐れがあります。

### デバイスの登録

最新ファームウェアなど、Osmose 関連のダウンロードリンクにアクセスするには、[製品登録ページ](#) (Expressive E ユーザーアカウント)に、製品に同梱されている茶色のクイックスタートガイドに記載されているシリアル番号を入力してください。シリアル番号は、Osmose CE の「Settings」>[\[info\]](#)[タブ](#)でも確認できます。

既に別のアカウントで製品が登録されており、以前のユーザーが登録解除を忘れている場合は、[弊社サポート](#)あるいは[メーカーサポートチーム](#)までお問い合わせください。

## ファームウェアアップデート



デバイスには常に最新のファームウェアをインストールすることをお勧めします。ファームウェアのダウンロードには、ユーザーデータのバックアップ/復元と Osmose CE のオペレーティングシステムのアップデートに使用するアプリケーション「OsmoseUpdater」が同梱されています。

ダウンロードは、[メーカーウェブサイト](#)で製品を登録後、お客様アカウントからご利用いただけます。詳細な手順については、こちらの専用ドキュメントをご覧ください。

Osmose ファームウェアアップデート手順は[こちら](#)をご覧ください。

## お役立ち動画

### 概要動画

Osmose CE の機能概要については、以下の動画をご覧ください。



[Osmose CE – Overview](#)

### DAW コントロールの紹介ビデオ

Osmose CE の DAW コントロールの概要については、以下のビデオをご覧ください。

- [daw control with ableton live](#)
- [daw control with bitwig studio](#)
- [daw control with cubase](#)
- [daw control with ligic pro](#)

## ハードウェア概要

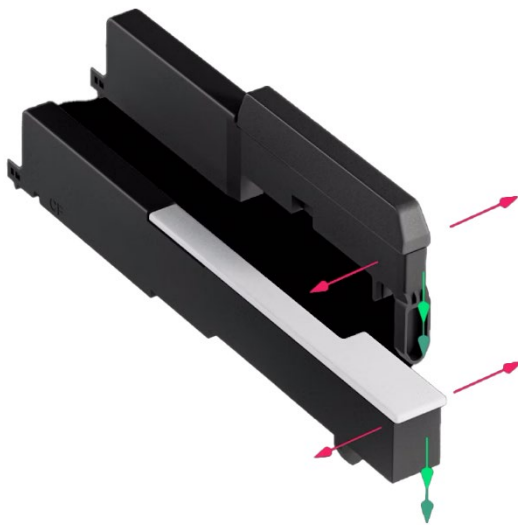
### 拡張キーボードアクション

Osmose CE は鍵盤の位置を常にスキャンし、演奏者のあらゆるジェスチャーとそれに伴うサウンドをシームレスに繋ぎます。

👉 Osmose CE の拡張キーボードアクションは、タッチスクリーンやタッチパッドのような静電容量式タッチパネルとは異なります。指の位置ではなく鍵盤の位置を検出することで、目を閉じて演奏している時でも常に段階的なプレッシャーフィードバックを提供します。

三方向の動きに対応しています：

- 拡張ポリフォニックプレッシャー
- 高解像度ポリフォニックアフタータッチ
- ポリフォニックピッチベンド



## リアパネル



1. **電源スイッチ** - Osmose CE の電源をオン/オフします。
2. **ペダル入力** - パラメーターを連続的にコントロールするための 1/4 インチ TRS ジャック入力が 2 つあります。すべてのペダルがサポートされているわけではなく、使用前にキャリブレーションが必要です。[ペダルのキャリブレーション](#)を参照してください。
3. **USB-C MIDI + 電源ポート** - コンピューターまたはホストとの双方向 MIDI 通信用のクラス標準 USB ポートです。
4. **USB 電源ポート** - 電源供給専用の USB-C ポートです。MIDI+電源コネクタ経由でバスパワーを供給できないデバイスに Osmose CE を接続する場合は、このポートを使用してください。たとえば、USB-C ポートのないコンピューターなどです。
5. **MIDI DIN IN/OUT** - MIDI デバイスとの通信用の標準 5 ピンコネクタです。

## フロントパネル



6. **ボリュームノブ** - DAW のマスター出力ボリュームをコントロールします。
7. **メインコントロールインターフェース** - Osmose CE のすべてのパラメーターにアクセスできます。[メインコントロールインターフェース](#)を参照してください。
8. **プリセットボタン(< >)** - 前後のプリセットを選択します。上部の黒いラベルは、Osmose CE が DAW コントロールに設定されている場合のシフト機能を示します。Ctrl-E と併用すると、これらのボタンで前後のインストゥルメントプリセットを選択できます。
9. **オクターブボタン(- +)** - キーボードをオクターブ単位で上下にトランスポートします。LED は現在のキーボードのトランスポート状態を示します。下部の黒いラベルは、Osmose CE が DAW コントロールに設定されている場合のシフト機能を示します。
10. **モジュレーションスライダー** - モジュレーションスライダーは標準的なモジュレーションホイールのように動作し、デフォルトでは MIDI CC1 を送信します。[controllers タブ](#)で割り当てを変更できます。
11. **ピッチベンドスライダー** - このスプリングセンター式のピッチベンドスライダーは、全体のピッチベンドをコントロールします。

## Osmose CE の MIDI ポート

Osmose CE をコンピューターに接続すると、3 つの USB MIDI ポートが表示されます。

### 1) USB ポート

macOS: 「Osmose CE 49 play」(ポート 1)または「Osmose CE 61 play」(ポート 1)

Windows: 「MIDIIN1」(Osmose CE 49)または「MIDIIN1」(Osmose CE 61)

このポートは、選択した MIDI 設定に従って、Osmose CE の MIDI パフォーマンスデータを USB 経由で送信します。Osmose CE から USB 経由で MIDI パフォーマンスデータを送信する場合は、このポートを使用してください。

### 2) DIN ポート

macOS: 「Osmose CE 49 din」(ポート 2)または「Osmose CE 61 din」(ポート 2)

Windows: 「MIDIIN2」(Osmose CE 49)または「MIDIIN2」(Osmose CE 61)

このポートは、選択した MIDI 設定に従って、Osmose CE の MIDI パフォーマンスデータを物理的な MIDI DIN 出力に送信します。Osmose CE から DIN 出力経由で MIDI パフォーマンスデータを送信する場合は、このポートを使用してください。DIN ポートの設定方法については、[midi i/o](#) タブを参照してください。

### 3) DAW コントロールポート

macOS: 「Osmose CE 49 daw control」(ポート 3)または「Osmose CE 61 daw control」(ポート 3)

Windows: 「MIDIIN3」(Osmose CE 49)または「MIDIIN3」(Osmose CE 61)

3 番目のポート「daw control」は、Osmose CE コントロールサーフェス機能、DAW、および Ctrl-E 間の内部通信専用です。MIDI ノート情報の送受信を行わないため、ハードウェアシンセやソフトウェアシンセには使用しないでください。

# コントロールインターフェースオーバービュー

## メインコントロールインターフェース

Osmose CE の左側面には、機器の機能を操作するためのインタラクティブなグラフィカルインターフェースが備わっています。操作は 2 つのグループに分かれており、ディスプレイ上部の 5 つのボタン(1~2)と、ディスプレイ周囲に配置された 6 つのクリック可能なエンコーダー(A、B、4~7)で構成されています。これらのエンコーダーの機能は、現在の画面によって変化します。



### 1 - m ボタン(シフト) - (1)

主に 2 つの用途があります。1 回押すか、長押ししてセカンダリ機能にアクセスできます。

**External MIDI モード時:** m ボタンを押すとメインメニューに戻ります。

**DAW Control モード時:** m ボタンを押すとトランスポートパネルが開きます。m ボタンを長押しするとシフトが有効になり、他のコントロールと組み合わせてセカンダリ機能にアクセスできます。

### 2 - MENU ボタン - モードの 4 つのメニューのうち 1 つにアクセスします - (2)

### 3 - クリック可能なエンコーダー - (A、B、4、5、6、7)

現在のメニュー内のパラメーターをナビゲートおよびコントロールするために使用します。

各エンコーダーは、現在の画面と使用可能な機能に応じて、回転、プレス(押し下げる)、またはその両方を行うことができます。

各エンコーダーの横に表示されるアイコンは、使用可能なアクションを示します。

- ・ 矢印は、エンコーダーを回転できることを示します。例：エンコーダーA。
- ・ 色の付いた点は、エンコーダーを押すことができることを示します。
- ・ 両方のアイコンが表示されている場合、エンコーダーは回転とプレスの両方が可能です。この画像では、例えば、エンコーダー4、5、6、7などです。
- ・ アイコンが表示されていない場合、エンコーダーは現在の状態では機能しません。例えば、エンコーダーBなどです。

各エンコーダーの具体的な機能は、選択されているメニューまたは画面によって異なります。

## ナビゲーションの基本操作

### 1) タブナビゲーション

メニューのタブをスクロールするには、左上隅にあるエンコーダーAを回してください。



### 2) パラメータのナビゲーション

タブに4つ以上のパラメータがある場合は、エンコーダーBを回して利用可能なパラメータをスクロールしてください。



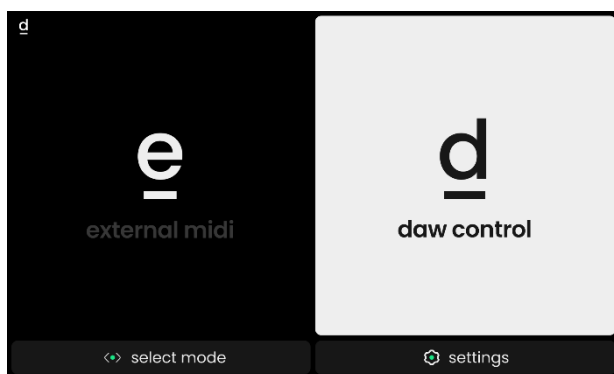
画面下部に表示される以下のアイコンは、タブ内のパラメータの総数を示しています。



## メインメニュー

### メインメニューオーバービュー

Osmose CE の起動時にメインメニュー画面が表示されます。これは、機器の使用方法を選択するための主要な入り口です。



現在の設定によって、1 つまたは 2 つの動作モードが表示されます。

### External MIDI

このモードでは、Osmose CE の MIDI コントローラー機能を使用して、ハードウェアまたはソフトウェアシンセサイザーを MIDI 経由で演奏およびコントロールできます。詳細については、[External MIDI モード](#)を参照してください。

### DAW Control

このモードは、Osmose CE が互換性のある DAW に接続されている場合にのみ表示されます。トランスポートコントロール、ナビゲーション、マクロコントロール、そして表現力豊かな MPE サウンドを実現する付属プラグイン Ctrl-E との高度な連携など、Osmose CE を DAW に自然に統合できるように設計されています。詳細については、[DAW Control モード](#)を参照してください。

メインメニュー画面からは、設定画面にもアクセスできます。[settings](#) 画面では、グローバルチューニング、ペダルキャリブレーション、ファームウェア情報、画面の明るさなど、システム全体の各種設定を調整できます。

## External MIDI モード

Osmose CE は、お手持ちのハードウェアやソフトウェアに新たな息吹を吹き込む、表現力豊かな MIDI コントローラーです。External MIDI モードを使用すると、USB 経由でホスト(コンピューター)に接続するか、DIN ポート経由で外部シンセサイザーに接続できます。

External MIDI モードの設定は、[DAW コントロールモード](#)の設定とは独立しています。External MIDI モードで行った変更は DAW コントロールの設定に影響を与えず、その逆も同様です。Ableton Live、Bitwig Studio、Cubase、または Logic Pro で DAW コントロールを使用する場合は、それぞれの [DAW コントロールモード](#)、のセクションを参照してください。

👉一部のシンセサイザー、プラグイン、または DAW は、ノートごとの表現力豊かなコントロールに使用されるプロトコルである MPE をサポートしていない場合がありますのでご注意ください。MPE がサポートされていない場合でも、Osmose CE は、クラシック MIDI、グローバルエクスプレッシブコントロール、または利用可能な場合は multi ch モードを通じて、表現力豊かな演奏体験を提供できます。詳細については、以下のセクションを参照してください。

## External MIDI モードの概要

### MIDI ポートに関する注意事項

[Osmose CE の MIDI ポート](#)のセクションで説明したとおり、Osmose CE の MIDI パフォーマンスデータを USB 経由で送信する場合は、“Play”USB MIDI ポートを使用してください。

- macOS: 「Osmose CE 49 Play」(ポート 1)または「Osmose CE 61 Play」(ポート 1)
- Windows: 「MIDIIN1」(Osmose CE 49)または「MIDIIN1」(Osmose CE 61)

Osmose CE の MIDI パフォーマンスデータを物理的な MIDI DIN 出力経由で送信する場合は、DIN ポートを使用してください。

- macOS: 「Osmose CE 49 din」(ポート 2)または「Osmose CE 61 din」(ポート 2)
- Windows: 「MIDIIN2」(Osmose CE 49)または「MIDIIN2」(Osmose CE 61)

### MPE について

Osmose CE は、一般的な電子楽器の表現上の制約を打ち破ることを目指す MIDI ポリフォニックエクスプレッション(MPE)対応の楽器およびコントローラー群の一つです。Osmose CE から外部楽

器をコントロールするには、従来の MIDI 通信の仕組みと、MPE 拡張機能がどのようにそれを基盤としているかを理解しておくが役立ちます。

従来の MIDI 環境では、あるサウンドに属するすべての MIDI メッセージは単一の MIDI チャンネルで送信されます。ピッチベンドや音色の変化などのモジュレーションはチャンネルごとに送信されるため、そのサウンドのすべてのノートに全く同じように影響を与えます。他の MIDI チャンネルが使用される場合、通常はハードウェアワークステーションや DAW など、マルチティンバー音源エンジンの別の楽器やトラックをコントロールするために用いられます。

MPE は MIDI 規格の公式拡張機能であり、複数の MIDI チャンネルを使用して同じサウンドをコントロールします。1つのチャンネルはグローバルメッセージ(マスターチャンネル)用に確保されますが、演奏される個々のノートにはそれぞれ専用の MIDI チャンネルが割り当てられます。この方法を使えば、チャンネルごとの変調を各音符に個別に適用できるため、ポリフォニック演奏をより細かくコントロールできます。

## 後方互換性

Osmose CE に接続する外部ソフトウェアまたはハードウェア音源が MPE に対応していなくても、Osmose CE の拡張キーボードアクションの鍵盤を通して、直感的に音色を自在に操ることができます。プレッシャーとアフタータッチのモーション軸は、シンセサイザー内部のあらゆるパラメーターをグローバルに連続的にコントロールできます。ベンド機能を使えば、演奏したすべての音符にピッチベンドを適用できます。

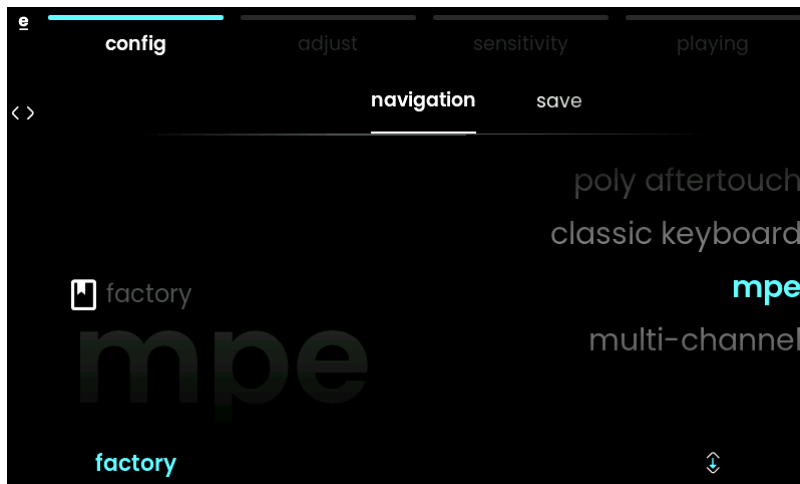
MPE 非対応環境では、モーション軸のグローバル値は、標準的な MIDI コントローラーのノブやフェーダーを操作するのと同様に、演奏したすべての音符に同じように影響を与えます。Osmose CE では、モーション軸から送信されるグローバル値を、押されたすべての鍵盤の個々の値の平均値として計算するか、特定の鍵盤(最高音、最も強く押された鍵盤など)に加えたプレッシャーやベンドから算出するかを選択できます。

外部シンセサイザーのモノフォニックラインは、Osmose CE から常に表現力豊かに演奏できます。これは、モノフォニックサウンドの場合、従来のモノチャンネル構成であっても、常に音声ごとに専用のチャンネルが割り当てられるためです。

具体的な例については、以下の専用ビデオをご覧ください：

<https://youtu.be/qPNmwEUEElo?si=DwcmDOLkArOX4Jno&t=675>

## config メニュー



config メニューでは、Osmoste CE が幅広いハードウェアおよびソフトウェアシンセサイザーと通信できるように設計された External MIDI 設定プリセットにアクセスできます。

ファクトリーフィルターには、classic keyboard、poly aftertouch、multi ch、MPE など、一般的な使用例に対応した標準 MIDI 設定が用意されています。これらの設定は、Osmoste CE が MIDI データを送信する方法を定義します。

特定の楽器やセットアップに合わせて独自の設定を作成することもできます。カスタム設定は保存でき、ユーザーフィルターに表示されます。

### ナビゲーションタブ

エンコーダー4を回すか、プリセットボタンを使用して、さまざまな External MIDI 設定を切り替えます。設定を実際にロードするには、エンコーダーを押す必要があります。

独自の [External MIDI 設定プリセットを保存](#)している場合は、画面下のエンコーダー1を回して、ファクトリー設定のみ、ユーザー設定のみ、またはすべてを表示できます。

External MIDI 設定は、[adjust メニュー](#)と [sensitivity メニュー](#)で微調整できます。

設定メニューで利用できる主な工場出荷時設定を詳しく見ていきましょう。

### MPE

MPE 対応ソフトウェアおよびハードウェアをコントロールするためのデフォルト設定です。

MIDI ポリフォニックエクスプレッション規格に準拠した MIDI メッセージを送信します。

プレッシャー軸はベロシティ(MPE ストライク)とチャンネルプレッシャー(MPE プレッシャー)を送信します。アフタータッチは CC74(MPE ティンバー、演奏面上の Y 軸に沿ったスライド動作で他の MPE コントローラーが操作するパラメーターであるため、MPE スライドとも呼ばれます)を送信します。ノートベンドはピッチベンドメッセージ(MPE グライド)を送信します。MIDI チャンネル 1 はグローバルメッセージ用に予約されており、チャンネル 2~16 はそれぞれ 1 ボイスの送信に使用されません。

### **classic keyboard**

完全な下位互換性を確保するには最適な選択肢です。従来の MIDI キーボードと同様の MIDI メッセージを送信します。[sensitivity メニュー](#)の「ノートオン」のスレッシュホールドは、従来のキーボード操作を再現するために、鍵盤ストロークに沿ってさらに下に移動します。プレッシャー軸はベロシティのみを送信し、アフタータッチ軸はチャンネルプレッシャー(一般的に「モノ」アフタータッチと呼ばれます)を送信します。ノートベンドは無効になっています。すべてのメッセージは MIDI チャンネル 1 で送信されます。

### **poly aftertouch**

ポリフォニックアフタータッチに対応したソフトウェアシンセやハードウェアシンセのコントロールに最適です。classic keyboard の設定と全く同じように動作しますが、アフタータッチ軸にはチャンネルプレッシャーではなくポリフォニックアフタータッチが送信されます。

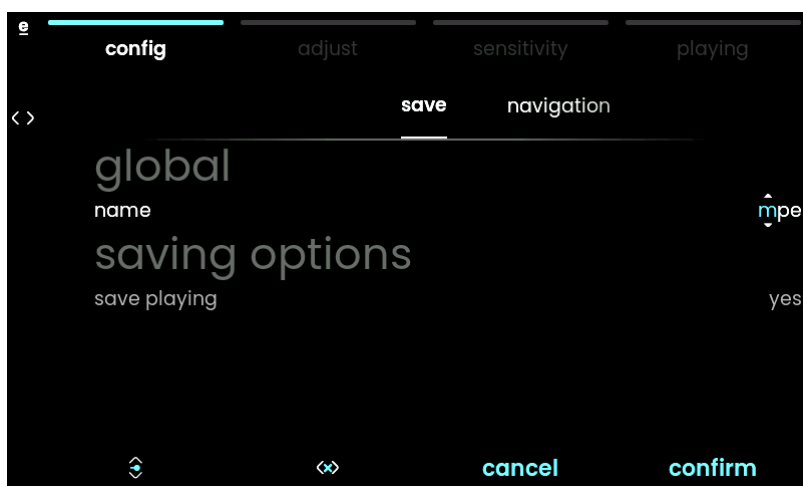
### **multi ch**

互換性のないソフトウェアやハードウェアで MPE の利点を再現する場合に便利です。そのためには、同じプラグインまたはサウンドの複数のインスタンスを外部デバイス上で起動し、それぞれを単一の MIDI チャンネルに呼応させる必要があります。

multi ch 設定は MPE 設定と全く同じように動作し、1 つの MIDI チャンネルで 1 つのボイスを送信しますが、グローバルメッセージ用のチャンネルがありません。グローバルチャンネルがないことを補うため、CC1(モジュレーションスライダー)などのグローバルメッセージは、アクティブなすべてのチャンネルにコピーとして送信されます。

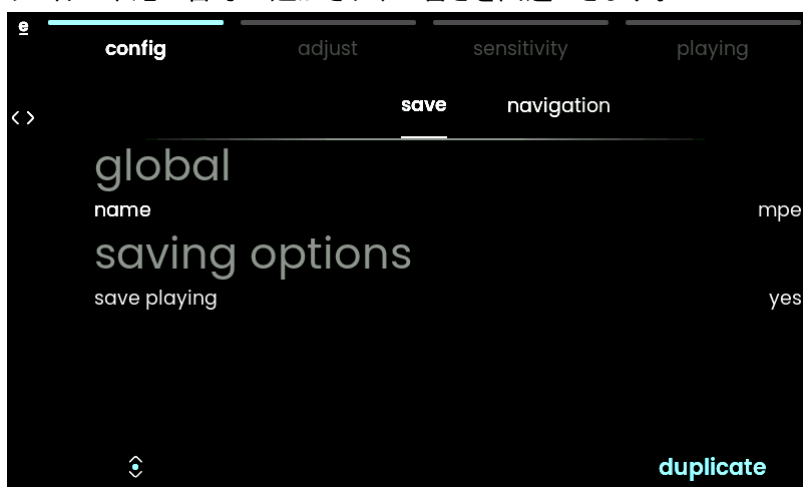
## save タブ

save タブでは、External MIDI 設定プリセットを保存できます。MIDI 設定プリセットを保存すると、External MIDI モードの [adjust メニュー](#)と [sensitivity メニュー](#)で行ったすべての変更が反映されます。「save playing」オプションを有効にすると、[playing メニュー](#)のプレスグライドまたはアルペジオの設定もプリセットファイルに保存されます。



プリセットを保存するには、エンコーダーA を使用して保存タブを探します。「name」が既にハイライトされているので、エンコーダー1 を押して名前を入力します。エンコーダー1 を回すと文字が順番に切り替わり、エンコーダー2 を回すと次の文字または前の文字にスクロールします。次に、再生オプションを保存するかどうかを選択します。

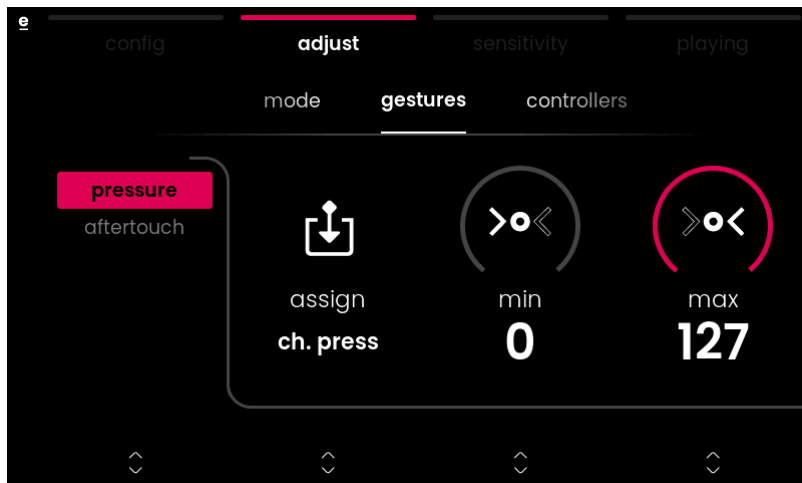
「save」ボタンを使用する際に、Osmose CE に同じ名前のプリセットが既に存在する場合は、上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。「duplicate」を選択すると、MIDI 設定プリセット名の末尾に番号が追加され、上書きを回避できます。



保存すると、作成した External MIDI 設定プリセットが [config メニュー](#)の navigation タブに表示されます。

## adjust メニュー

adjust メニューでは、使用する MIDI チャンネル、およびどのキー軸の動きまたはコントローラーによって送信される MIDI メッセージを指定できます。

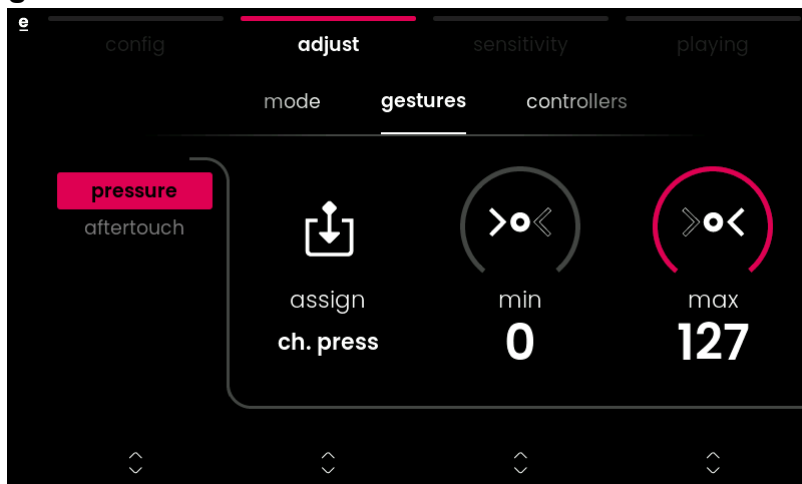


**gestures** タブ:プレッシャー軸とアフタータッチ軸で送信される MIDI メッセージを設定します。

**controllers** タブ:モジュレーションスライダーと 2 つのペダルで送信される MIDI メッセージを設定します。

**mode** タブ:使用する MIDI 設定と MIDI チャンネルを選択します。

### gestures タブ



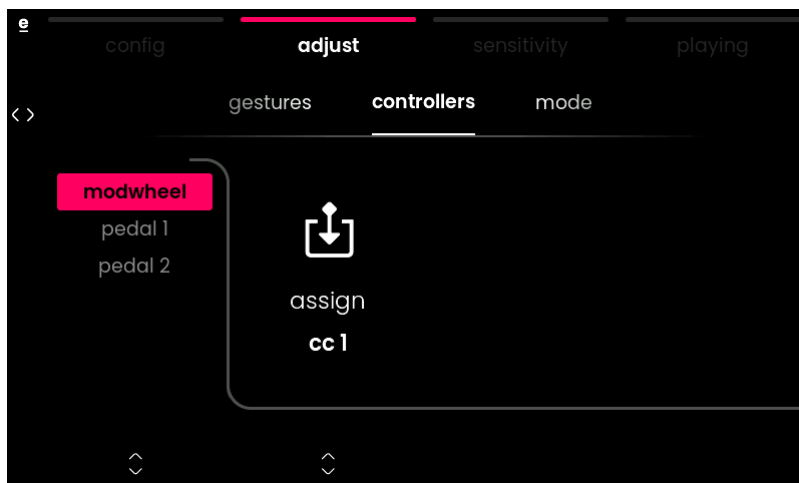
このタブでは、プレッシャー軸とアフタータッチ軸から送信される信号を設定します。まず、値エンコーダー1 でプレッシャーまたはアフタータッチを選択し、次にエンコーダー2~4 でそのパラメーターを変更します。

**assign** は、左側で選択した軸の動きに対して送信される MIDI メッセージを選択します。min は最小値を設定し、max は最大値を設定します。

**activation** は、鍵盤全体に対して単一の値が送信される場合（音符ごとではなく）、軸の動きの値がどのように計算されるかを定義します。このパラメータは、設定メニューで「classic keyboard」や「poly aftertouch」などのモノチャンネル構成が選択されている場合にのみ表示されます。オプションは以下のとおりです。

- ・ maximum: 最も押されたキーが値を定義します
- ・ minimum: 最も押されていないキーが値を定義します
- ・ last note: 最後に押されたキーが値を定義します
- ・ first note: まだ最も古いキーが値を定義します
- ・ average: 送信される値は、押されたすべてのキーの平均として計算されます

## controllers タブ



このタブでは、モジュレーションスライダーと2つのペダルから送信される信号を定義します。

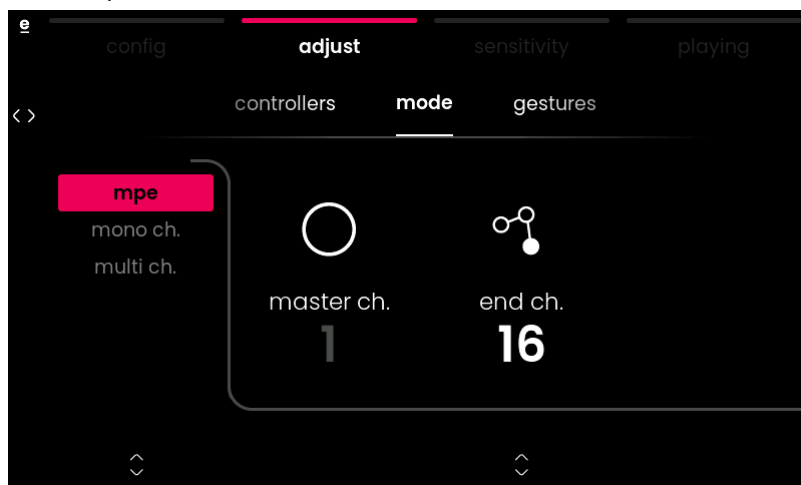
まず、エンコーダー1でコントローラーを選択し、次にエンコーダー2でそのパラメーターを変更します。

**assign**: 左側のコントローラーから送信される MIDI メッセージを選択します。

**min**: 最小値を設定します。

**max**: 最大値を設定します。

## mode タブ



このタブでは、一般的な MIDI モードと、そのモード内で MIDI メッセージが MIDI チャンネルにどのように分配されるかを設定できます。コントロールしたい外部ソフトウェアまたはハードウェアが設定を必要とする場合、設定メニューで選択した設定を微調整するために使用します。調整可能な項目は次のとおりです。

### mpe

mpe 設定の終了チャンネルを定義します。MPE 仕様に従い、グローバルメッセージのマスターチャンネルは 1 のままにする必要がありますが、終了チャンネルパラメータを使用すると、例えばターゲットデバイスのポリフォニーが限られている場合などに、単音の転送に使用するチャンネル数を減らすことができます。

例: 終了チャンネルを 13 に設定すると、ノートはチャンネル 2 から 13 にラウンドロビン方式で分配され、12 ボイスの MPE ポリフォニーが実現します。

### mono ch

従来の MIDI 設定(「classic keyboard」や「poly aftertouch」設定など)でノートを送信する単一チャンネルを定義します。

### multi ch

multi ch 設定の開始チャンネルと終了チャンネルを定義します。

例: 開始チャンネル 4 と終了チャンネル 9 を選択すると、ノートはチャンネル 4、5、6、7、8、9 間でラウンドロビンパターンで送信され、6 ノートのポリフォニーが実現します。

## セットアップ例

### モノフォニックシンセサイザー

Sub Phatty などのモノフォニックシンセサイザーをコントロールするには、まず Osmose CE の DIN

出力と Sub Phatty の DIN 入力を MIDI ケーブルで接続します。setting メニューを開き、「classic keyboard」の設定を読み込みます。Osmose CE と Sub Phatty の両方で、mono ch.が「1」に設定されていることを確認してください。次に、settings の [midi i/o タブ](#)を開き、DIN モードが 1/3 に設定されていることを確認します。[sensitivity メニュー](#)で、Press/Velocity、Aftertouch 設定を調整し、接続したシンセサイザーに合わせて Osmose CE のレスポンスを調整します。

さらに高度な設定を行うには、[sensitivity メニュー](#)でベンディングを有効にします。これにより、Osmose CE の鍵盤を左右に動かすことで、ビブラートやピッチベンドを直接演奏できるようになります。

Osmose CE - 概要の例をご覧ください。

<https://youtu.be/qPNmwEUEElo?si=Kte-gEQrkzw9VsLE&t=711>

### **ポリフォニックアフタータッチシンセサイザー**

Prophet-6 のようなモノフォニックシンセサイザーをコントロールしたい場合は、Osmose CE の DIN 出力と Prophet-6 の DIN 入力を MIDI DIN ケーブルで接続します。[config](#) メニューを開き、「poly aftertouch」の設定を読み込みます。次に、setting メニューの mode タブを開き、「multi ch」が選択されていることを確認します。「start ch」を「1」、end チャンネルを「6」に設定します。設定の [MIDI i/o](#) タブを開き、DIN モードで 1/3 を選択します。Prophet-6 の設定を開き、送信しているチャンネルと同じチャンネルで MIDI 信号を受信していることを確認します。press/velocity、aftertouch、bending を好みに合わせて調整します。適切なレスポンスを得るには、[adjust メニュー](#)で「channel pressure」と「aftertouch」の割り当てを入れ替える必要がある場合があります。

### **スーパーシンセ**

Osmose CE でコントロールできる「スーパーシンセ」を作成するには、まず DAW に複数のインストゥルメントプラグインを読み込みます。同じプラグインを使うか、異なるプラグインとパッチを組み合わせ、指一本一本に独自の「voice」を割り当てます。6 音ポリフォニーにするには、6 つのトラックを作成し、それぞれにインストゥルメントプラグインを追加します。トラック 1 を MIDI チャンネル 1 に割り当て、各トラックが固有の MIDI チャンネルに対応するようにします。メニューボタン 1 を押して [config メニュー](#)を開き、工場出荷時の「multi-channel」設定を読み込みます。adjust メニューの [mode タブ](#)に進み、「start ch.」を「1」、「end ch.」を「6」に設定します。

「スーパーシンセ」には、モノフォニック、ポリフォニック、またはその両方を組み合わせたソフトウェアシンセを使用できます。

こちらの例をご覧ください：

[MPE: Demystified - クリエイティブチュートリアル](#)

## orchestral ライブラリ

MPE をサポートしていないオーケストラライブラリでも、ノートごとの表現設定は可能です。例えば、8つのボイスをコントロールしたいとします。DAWに8つのオーケストラライブラリプラグインインスタンスをロードし、それぞれに好みのサウンドを選択します。各インスタンスに固有のMIDIチャンネルを割り当てます。インスタンス1にはチャンネル1、インスタンス2にはチャンネル2、といった具合です。最後に、インスタンス8にチャンネル8を設定し、Osmose CEのファクトリー設定である「multi-channel」設定をロードします。[adjust メニュー](#)のmodeタブを開き、「start ch」を「1」、「end チャンネル」を「8」に設定して、チャンネル数を一致させます。

[gestures タブ](#)を開き、「ch press」に「pressure」が割り当てられていることを確認し、「max」を40に設定します。次に、エンコーダー1をスクロールして「aftertouch」を選択し、「min」を41に調整します。これは、キーが「40」を超えると、値が「41」以上になったときにアフタータッチが作動することを意味します。ライブラリによって反応が若干異なるため、これらの2つの値をいろいろ試してみることをお勧めします。値の数値は常に隣り合っている必要があります。たとえば、「channel pressure max」が「63」の場合、「aftertouch min」は「64」にする必要があります。

こちらの例をご覧ください：[Osmose CE - Overview](#)

## 外部 MPE シンセサイザー／サウンドモジュール

外部 MPE シンセサイザーを使用する場合は、Osmose CE の DIN 出力ポートから MIDI 入力ポートに DIN ケーブルを接続します。コントロールしたいシンセサイザーが「MPE モード」に設定されていることを確認してください。例えば、7ボイス搭載のGS Music E7を使用する場合を考えてみましょう。設定メニューを開き、MIDI 設定を「MPE」に変更します。MPE では、チャンネル1が常にマスターチャンネルとして予約されるため、個々のボイスはチャンネル2から始まります。adjustメニューの[mode タブ](#)を開き、「end ch」を「8」に設定します。[settings](#)の[midi i/o](#)タブに進み、DIN モードを1/3に設定します。E7のMIDIチャンネル設定を確認し、チャンネル2~8に対応していることを確認してください。

こちらの例をご覧ください：[MPE: 解説](#)

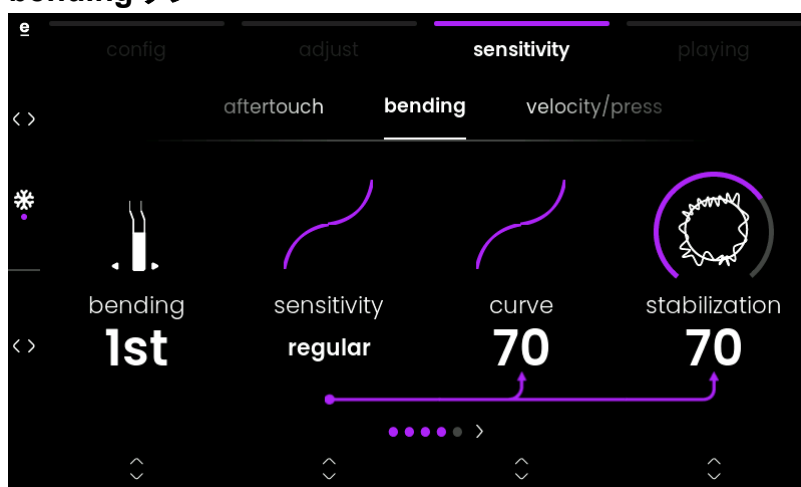
設定が完了し、すべての設定が正しいことを確認したら、MIDI 設定に[名前を付けて保存](#)し、後で簡単に呼び出すことができます。

## sensitivity メニュー

sensitivity メニューでは、ベンド、ペロシティ/プレス、アフタータッチの鍵盤感度をカスタマイズできます。これらのパラメーターは、作成した MIDI 設定プリセットに常に保存されます。変更内容を保持したい場合は、MIDI 設定プリセットを再度手動で保存する必要があります。

sensitivity メニューの概要ビデオはこちらをご覧ください: [Osmoste CE — Overview](#)

## bending タブ



bending は、鍵盤を左右に揺らしたときのベンディング範囲を設定します。

MPE を使用する場合、ベンディング値は半音単位で表示されます。「mpe bend range」と連動して動作します。詳細は [workflow タブ](#) の章をご覧ください。

Mono、Poly Aftertouch、Multi-channel モードでは、ベンディング値は、コントロールしているプリセット、プラグイン、またはシンセサイザーに設定されているピッチベンド範囲の比率として表示されます。例えば、接続されているシンセサイザーのピッチベンド範囲が±2 半音に設定されている場合、ベンディング値が 1 だと Osmoste CE は±2 半音の範囲全体を使用します。値が 1/2 だとその範囲の半分、つまり±1 半音になります。

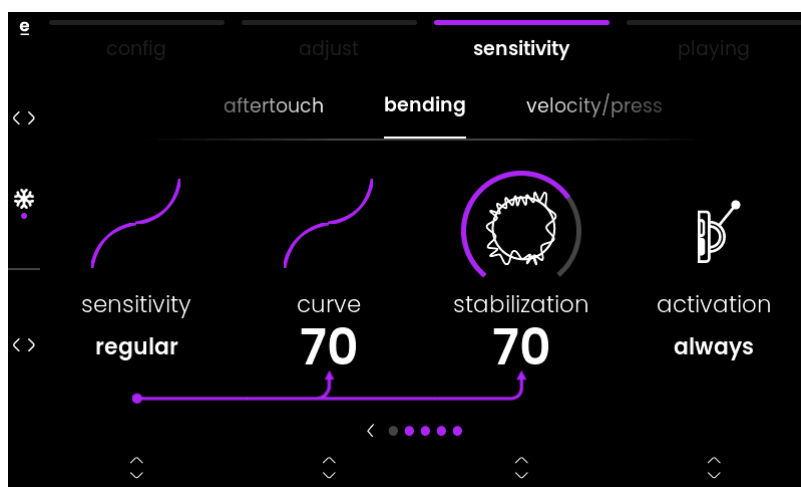


👉 これにより、Osmose CE の横方向のキー操作で、MPE 非対応楽器のピッチベンドをコントロールできるようになります。MPE 非対応のセットアップでは、このピッチベンドはグローバル設定となり、現在演奏中のすべての音に同じように影響します。

**sensitivity**: キーごとのベンドの感度を調整します。

**curve**: ベンドのカーブを微調整します。

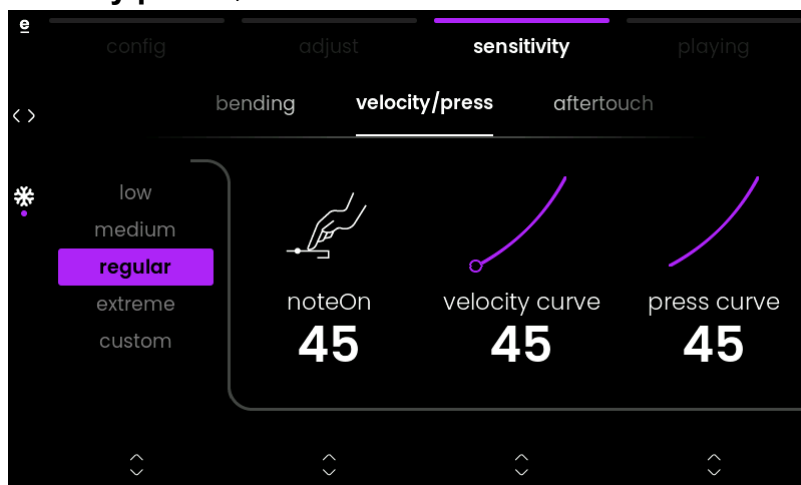
**stabilization**: ベンド開始後数ミリ秒間の安定化を行います。値が大きいほど、安定化がより強固になります。



activation は、鍵盤を弾いたときにベンドがどのように適用されるかを定義します。アクティベーションパラメータを表示するには、エンコーダーB を使用して右にスクロールします。次に、エンコーダー4 を回してアクティベーションタイプを選択します。選択に応じて、ベンドが以下のように適用されます。

- always: すべての音符に対して鍵盤ごとのベンド
- never: 鍵盤ごとのベンドは無効
- to oldest note: 押されている最も前に押した鍵盤の値が値になります
- to last note: 最後に押した鍵盤の値が値になります
- to lowest note: 最も低い音符の鍵盤
- to highest note: 最も高い音符の鍵盤

## velocity/press タブ



「velocity/press」タブは、鍵盤の垂直方向の最初の次元をコントロールします。エンコーダー1 では、サブプリセット (low, medium, regular extreme, custom) のリストから選択できます。これらのプリセットは、以下のパラメーターを同時にコントロールします。

**noteOn** は、鍵盤を押し下げたどの時点でノートがトリガーされるかを定義します。これは「note on」スレッシュヨルド値と呼ばれます。

意図せずノートがトリガーされてしまう場合は、「noteOn」のスレッシュヨルド値を上げることをお勧めします。

これにより、鍵盤を一番下まで押し込んだときにのみノートがトリガーされる、従来の鍵盤の感触に近づきます。

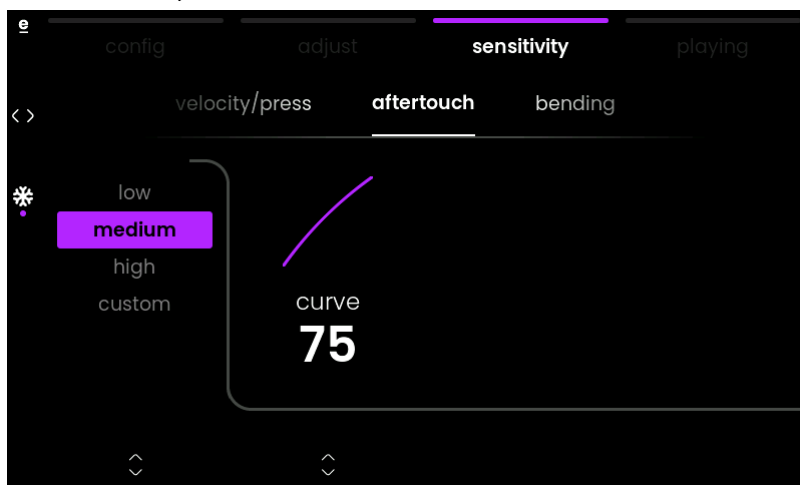
一方、軽いタッチだけでノートをトリガーする実験をしたい場合は、「noteOn」スレッシュヨルド値を非常に低く設定することで可能になります。

**velocity curve** は、鍵盤のベロシティのレスポンスカーブを調整します。MIDI にのみ適用されます。

**press curve** は、プレス方向のレスポンスカーブを調整します。MPE にのみ適用されます。

これら 3 つのパラメーターのいずれかを変更すると、サブプリセットが「custom」に切り替わります。

## aftertouch タブ

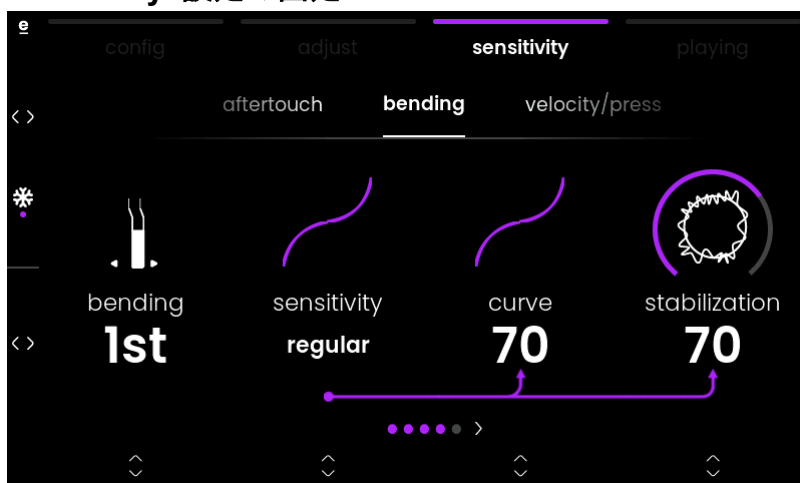


アフタータッチは、圧力軸の動きが最大となる位置から始まります。アフタータッチは、明確に感知できる圧力ポイントに続く、鍵盤の垂直方向の移動の後半部分です。

このタブの最初のパラメーターは、aftertouch sensitivity カーブのクイックプリセットを提案するもので、エンコーダー2を回すことで微調整することもできます。

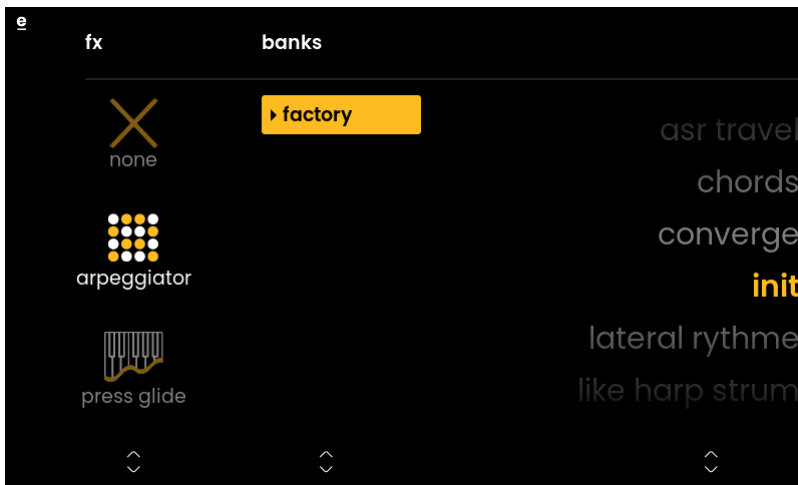
同時に演奏する音符が多いほど、意図せず音程がずれることなく鍵盤のアフタータッチを完全に押し込むのが難しくなります。このような場合は、軽い力で反応する感度の高いアフタータッチの方が適しているかもしれません。一方、プリセットによってアフタータッチ時に特別なサウンド効果（例えば、ピッキング音の自動ラチェットなど）が発動し、よりクリアな音の分離を求める場合は、アフタータッチカーブを低く設定すると効果的です。

## sensitivity 設定の固定



エンコーダーA(\*)を押すと、読み込むすべての MIDI 設定プリセットで現在の sensitivity 設定が固定されます。固定が有効になると、エンコーダーの横にある雪の結晶アイコンが紫色に変わります。もう一度エンコーダーAを押すと、固定が解除されます。

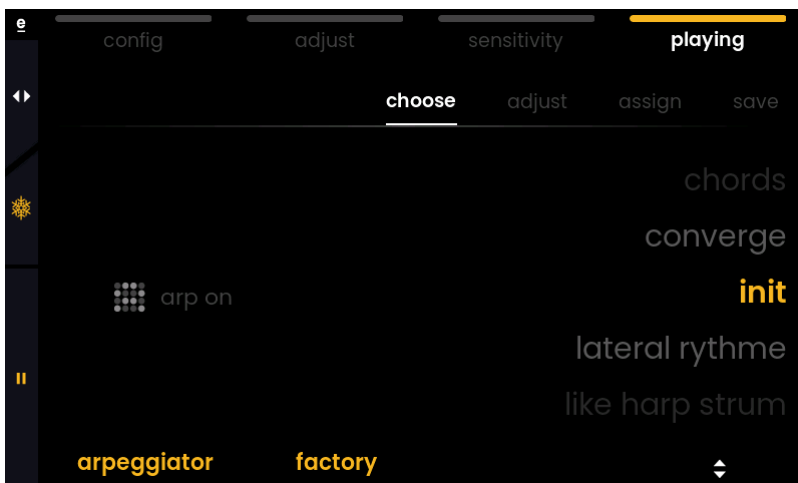
## Playing メニュー: イントロダクション



Playing メニューでは、Osmose CE の連続的な表現力豊かなコントロールを活用した機能にアクセスでき、演奏の創造性をさらに広げることができます。

4 番目のメニューボタンで「Playing」メニューにアクセスしたら、エンコーダー1 を回して、表現力豊かなアルペジエーターである「Pressure Glide」、または「no playing feature」のいずれかを選択してください。

## expressive arpeggiator(エクスペッシブアルペジエーター)



アルペジエーターは通常、すべての音符を同じ強度でトリガーするため、やや機械的で単調なサウンドになることが多いですが、Osmose CE の MPE アルペジエーターはアルペジエーターパターンを演奏する際、Osmose CE は [拡張キーボードアクションキー](#) の Pressure、Aftertouch、Bending の 3 軸の動きすべてを考慮し続けます。つまり、アルペジエーターシーケンス内の特定の音符を、他の音符とは異なる押し方で強調表示できるということです。

**choose** タブ: アルペジエータープリセットをロードします。

**adjust** タブ: アルペジエーターのパラメーターを設定します。

**assign** タブ: ジェスチャーやコントローラーでアルペジエーターのパラメーターをモジュレーションします。

**save** タブ: 現在のアルペジエーター設定をプリセットとして保存します。

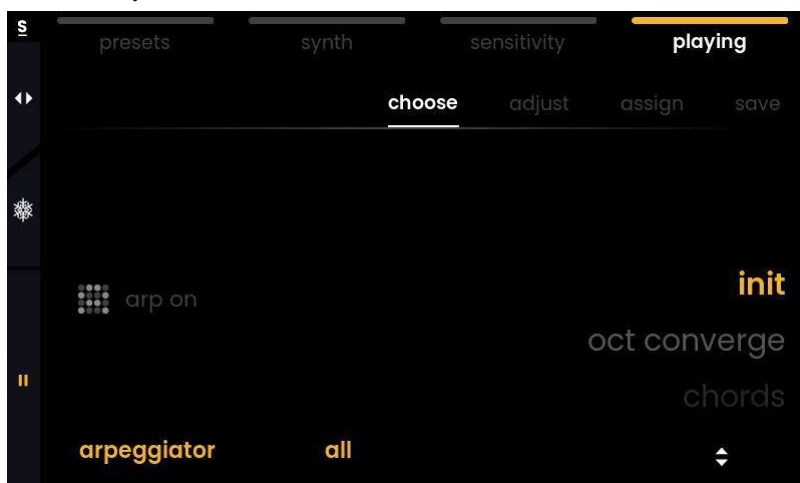
※ エンコーダーB をクリックすると、アルペジエーターの開始または一時停止ができます。

アルペジエーターは通常、MIDI ポリフォニックエクスプレッションの「ポリフォニック」機能をそれほど必要としない単音ラインを演奏します。Osmose CE のアルペジエーターは、MPE 非対応の旧式楽器でも非常に生き生きとしたサウンドを奏でることができます。ただし、MPE 非対応環境で音符が重なると、ピッチベンドなどのパラメーターはグローバルに設定され、すべての音符に同時に影響することに注意してください。

MPE 非対応の MIDI 設定プリセットでアルペジエーターを使用する場合、MIDI ベロシティは鍵盤のプレス圧に基づいて算出されます。軽く押された鍵盤は最小ベロシティを送信し、プレス圧が最大まで達した鍵盤(アフタータッチを設定する必要はありません)は最大ベロシティを送信します。

アルペジエーターから送信されるベロシティ値を調整するには、ベロシティカーブではなく、[sensitivity メニュー](#)のプレスカーブを変更する必要があります。これは、手動でトリガーされた鍵盤のベロシティのみをコントロールします。

## choose タブ



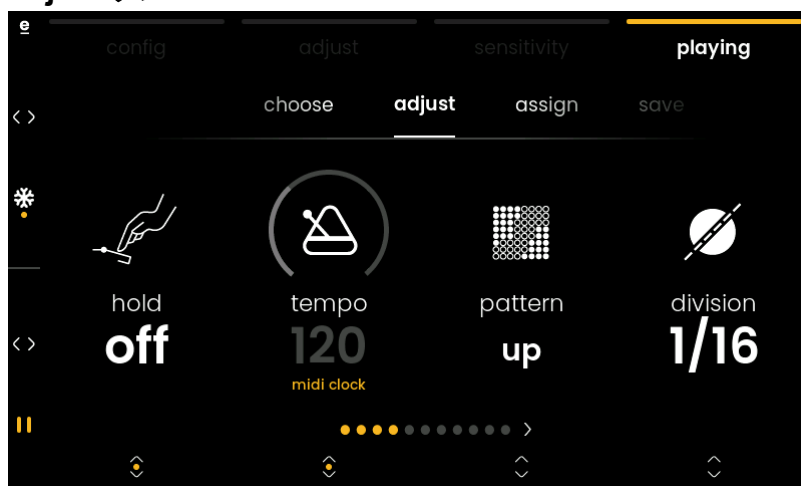
アルペジエーターの最初のタブは **choose** タブで、アルペジエーターのプリセットにアクセスできます。現在ロードされているアルペジエーターのプリセットは黄色でハイライト表示されます。エンコ

ーダー4 を回して別のプリセットを選択してください。エンコーダー2 を使用すると、ファクトリープリセットとユーザープリセットをフィルタリングできます。

・アルペジエーターのプリセットとその相互作用を理解するには、ポリフォニックフルートやブラスサウンド、またはアタックとリリースが比較的短いプリセットをロードすることをお勧めします。これにより、ジェスチャーでアルペジエーターをどのようにモジュレーションできるかを理解する良い出発点となります。

・エンコーダーA(\*)を押すと、フリーズが有効になり、MIDI 設定プリセットを切り替える際に現在のアルペジエーター設定が保持されます。

## adjust タブ



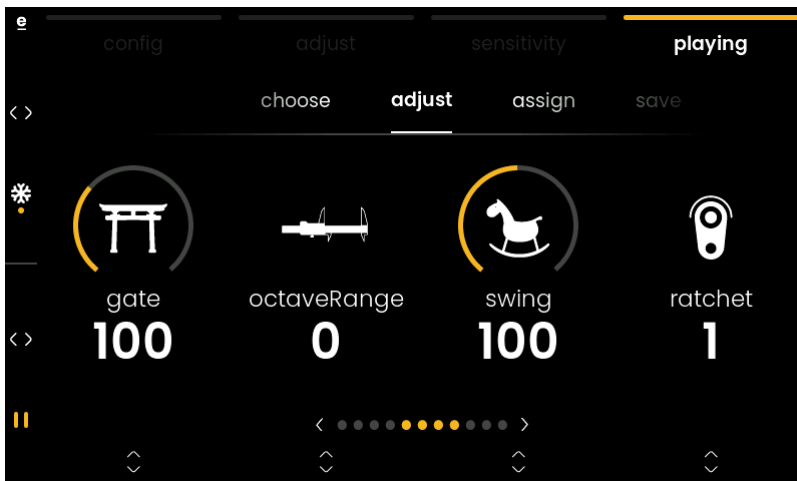
adjust タブには、アルペジエーターのすべてのパラメーターが含まれています。

**hold** をオンにすると、キーから指を離しても、押した音符が引き続きトリガーされます。各キーに加えた最大圧力が記憶されます。音符のシーケンスは、すべてのキーを完全に離してから新しいキーを押したときにのみリセットされます。

**tempo** は 1 分あたりの拍数を定義します。下の Value Encoder を押すと、外部 MIDI クロックとの同期と内部クロックの使用が切り替わります。注意: Osмосе CE は内部クロックを送信できません。

**pattern** では、音符の再生順序を選択できます。

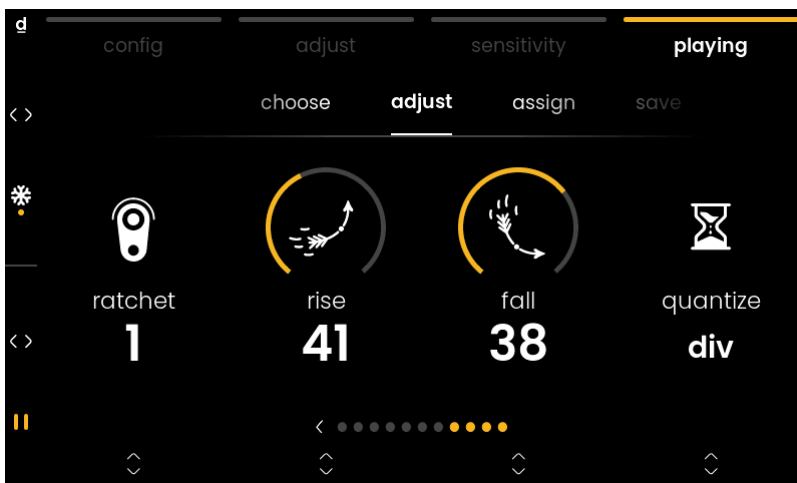
**division** は、アルペジエーターの 1 ステップあたりの音符の値を定義します。テンポの分割を選択することで、音符の再生速度が決まります。



**gate** は、アルペジオのベロシティに応じて、各音符の長さを 1 音符の長さに対する割合として設定します。

**octave range** では、演奏する音符の上に複数のオクターブを追加できます。

**swing** は、アルペジエーターのステップを 2 つおきに時間的にずらすことができます。100 ではすべてのステップが均等に再生されることを意味します。100 を超える値にすると、徐々にスイングが大きくなり、最終的には 2 つおきのステップが次のステップと連動するようになります。



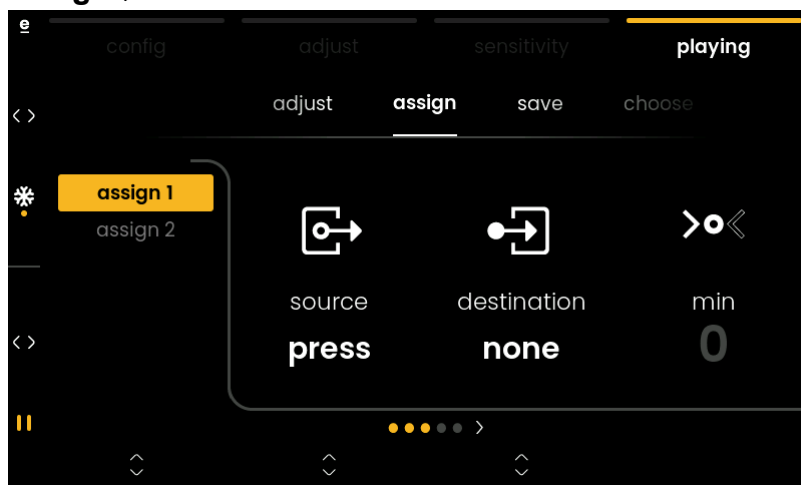
**ratchet** 機能は、アルペジエーターの 1 ステップ中に複数のトリガーを発生させます。

**rise** と **fall** 機能は、パラメーターの変化に慣性を加え、値の急激な増減を滑らかにします。

**quantize** 機能は、ノートを分割または拍子に基づいてクオンタイズするか、オフにします。

コントローラーを介してジェスチャーでアルペジエーターのパラメーターをコントロールする場合 ([assign タブ](#)を参照)、その値はグレー表示され、パラメーターの下にモジュレーションソースが黄色で表示されます。上の図では、アフタータッチがゲートをコントロールし、プレスがラチェットパラメーターをコントロールしています。

## assign タブ

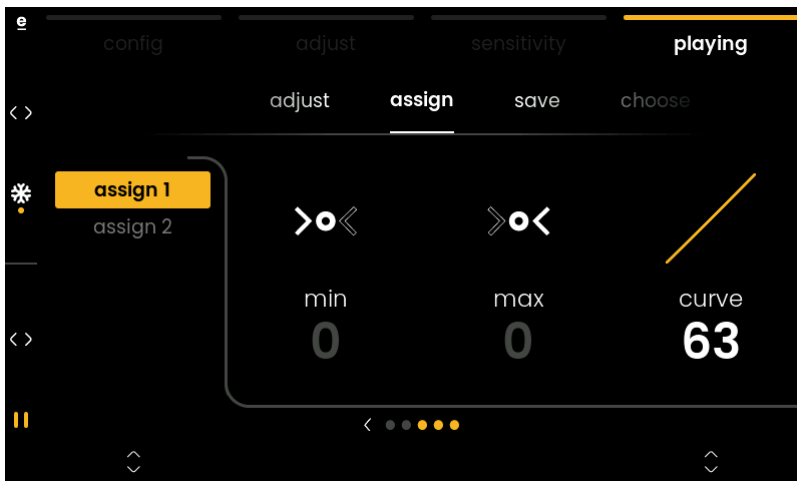


アルペジエーター使用時も、音色プリセットの Pressure、Aftertouch、Bending に関するプログラムされた動作は維持されます。個々のノートをベンドすると、ピッチが変化し続け、さらに強く押すと音が大きくなり明るくなる場合、アルペジエーターが有効な場合も同様の現象が起こります。

さらに、鍵盤上の個々のノートの押し方によって、そのノートのアルペジエーターパラメーターに影響を与えることができます。assign タブでは、このパラメーターマッピングを設定できます。assign スロットは 2 つあり、以下のパラメーターセットが用意されています。

**source:** destination パラメーターに影響を与える鍵盤またはコントローラーのモーション軸を選択します。ここでは、左ベンドと右ベンドを別々のソースとして選択できます。モジュレーションスライダーまたはエクスプレッションペダルをモジュレーションソースとして使用する場合、パラメーターの変更は全体的(ノートごとではない)になります。

**destination:** モジュレーションするアルペジエーターパラメーターを選択します。これには、[adjust タブ](#) にリストされているすべてのパラメーターが含まれます。



min は送信される最小値を設定します。

max は送信される最大値を設定します。

curve は、ソース値が min から max に変化したときの結果の値がどのように分布するかを変更します。線形応答の場合、カーブに沿って値の範囲が均等になることを意味します。min が 1、max が 2 に設定されている場合、ソースコントロールが 51%(MIDI 値 64)の時点で 2 が選択されます。

## save タブ



MPE アルペジエーターの save タブでは、現在のアルペジエーター設定をプリセットとして保存できます。保存されたプリセットは [choose タブ](#) に表示されます。

アルペジエーターにカスタム名を付けるには、name の行を選択した状態でエンコーダー1 を押しします。同じエンコーダーを回して文字をスクロールします。エンコーダー2 を回すとカーソルが移動します。完了したら、エンコーダー4 を押して確定します。remove の下にあるエンコーダー2 をクリックして確定すると、アルペジエータープリセットを削除できます。

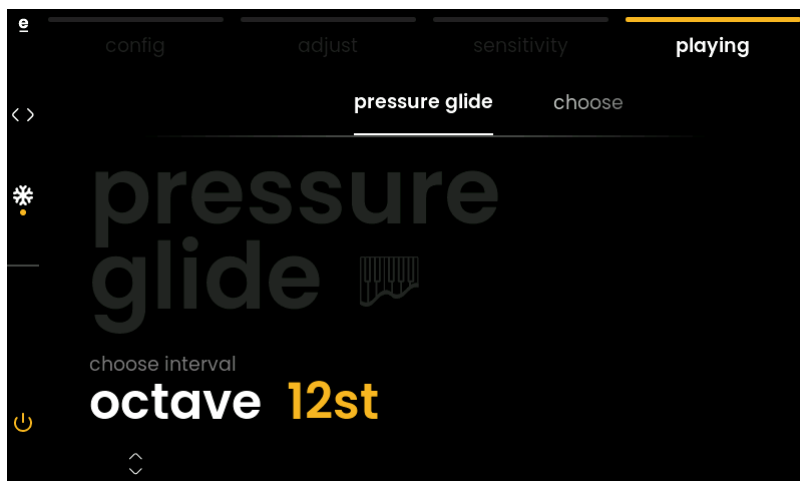
## pressure glide(プレッシャーグライド)

プレッシャーグライド機能を使うと、2つのキーを押したときのピッチ間隔を定義できます。

この機能を使うと、2つのキーを押したときのピッチが、ポリフォニック演奏ではなくレガート奏法として解釈されます。

通常のポルタメントは、一定のポルタメント時間内でピッチを次の音に滑らかに移行させますが、プレッシャーグライドは2つの音の間の圧力比に反応します。ピッチは、2つの音の間で圧力をどのように配分するかに応じて、リアルタイムでダイナミックに移行します。2つ目の音にピッチを移行させるには、最初の音を完全に離す必要があります。

プレッシャーグライドの仕組みをより詳しく理解するには、osmose の[クイックスタートビデオ](#)にあるプレッシャーグライドのセクションをご覧ください。



- ※ **重要:**プレッシャーグライドを有効にした状態でコードを演奏する場合、設定したインターバル内で同時に押された2つの音は、常に1つの音程に結合されます。例えば、pressure glideのインターバルを2半音に設定した場合、3度音程を重ねたコードや、より広いボイスイングのコードを演奏できますが、2度音程を演奏すると、2つの独立した音ではなく、平均音程の1つの音になってしまいます。
- ※ Osmose CE が DAW コントロールモードで、Playing メニューで「pressure glide」が選択されている場合、mode ボタンを押して DAW トランスポート画面を開くことで、プレッシャーグライドを有効または無効にできます。画面が開いたら、mode ボタンを長押ししながらエンコーダー3を押してください。

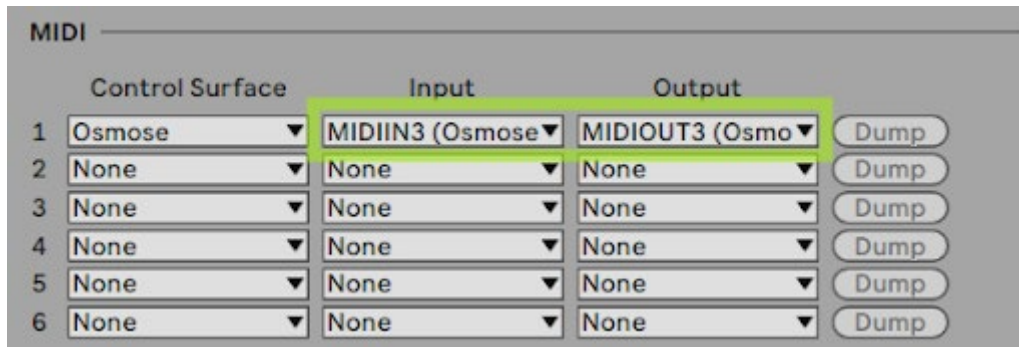
# DAW コントロールモード

## DAW の設定

### Ableton Live

#### 1) Ableton Live のセットアップ

Ableton Live には、DAW コントロールに必要なスクリプトが既に含まれています。最新バージョンの Live をダウンロードしてアップデートしてから、先に進んでください。アップデートが完了したら、スムーズな動作を確保するために、以下の設定を確認することをお勧めします。Ableton Live の「Settings」→「MIDI Control Surfaces」では、以下のように表示されます。



Osmose CE の USB MIDI ポート 1 の入力設定で、トラックと MPE を有効にしてください。



macOS では、ポート 1 は「再生」、ポート 3 は「Osmose CE DAW コントロール」と表示されます。  
※Ableton の「テイクオーバーモード」が「なし」に設定されている場合、「設定」>「コントローラー」で「ピックアップ」を選択してください。

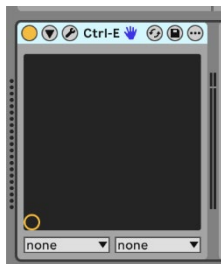
トラックの MIDI 入力には、以下のリストにある Osmose CE ポート 1(再生ポート)を選択してください。



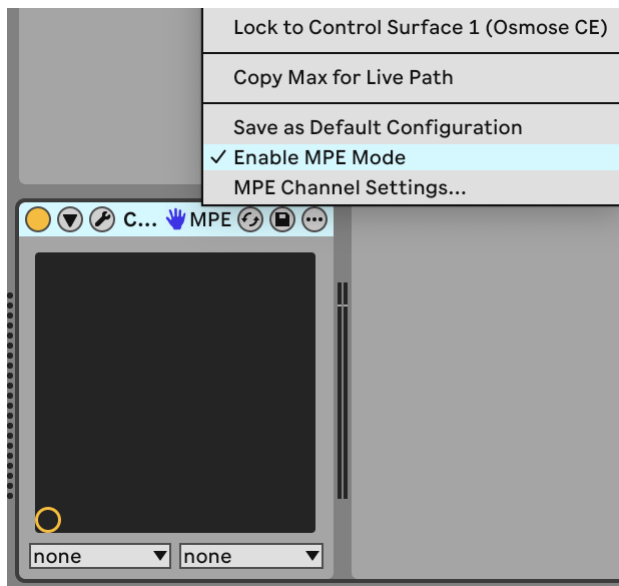
## 2) Ctrl-E の MPE を有効にする

Ableton Live で Ctrl-E が正しく動作するためには、プラグインが MPE 対応デバイスとして認識されている必要があります。通常は自動的に有効になります。MPE 再生やエクスプレッションに問題が発生した場合は、手動で確認できます。

1. Ableton Live で、プラグイン名が表示されている Ctrl-E デバイスのタイトルバーを右クリックします。



2. 「MPE モードを有効にする」にチェックが入っていることを確認してください。



3. 次に「Save as Default Configuration」を選択すると、Ableton Live は今後の Ctrl-E 操作時にこの設定を記憶します。

## Bitwig Studio

### 1) DAW コントロールスクリプトのインストール

Osmose CE DAW コントロールスクリプトは、Bitwig Studio 6.0.6 以降に標準搭載されています。別途インストールする必要はありません。

Bitwig Studio 5.2.3 以降をご利用で、最新バージョンにアップグレードできない場合は、Expressive E ユーザーアカウントから入手できる Bitwig スクリプトインストーラーをご利用ください。

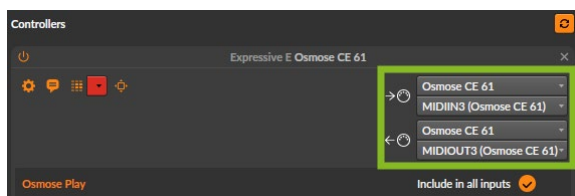
ダウンロードするには、Expressive E アカウントにログインし、「マイプロダクト」に移動して Osmose CE を探し、お使いのオペレーティングシステム用の DAW スクリプトをダウンロードしてください。

ダウンロード後、ファイルを解凍し、Bitwig スクリプトインストーラーを実行します。インストール前に Bitwig Studio が閉じていることを確認してください。

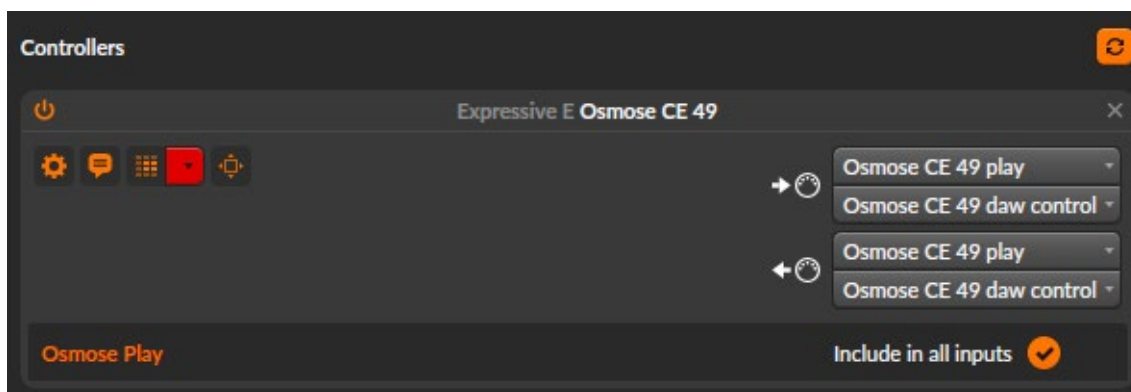
インストール後、Bitwig Studio を開き、以下の設定が正しいことを確認してください。

### 2) 推奨設定

自動的にマウントされない場合は、Settings → Controllers で「add controller」をクリックし、ベンダーとして「Expressive E」を選択し、お使いの CE モデルを選択してください。次に、入力と出力の両方について、最初のラインに Osmose CE の USB MIDI ポート 1 を選択し、2 番目のラインに USB MIDI ポート 3 を選択します。



macOS では、ポート 1 は「play」、ポート 3 は「daw control」とラベル付けされています。



※Bitwig の「takeover mode」が「immediate」に設定されている場合、Settings > Controllers に移動し、「catch」を選択してください。

### 3) Ctrl-E の MPE を有効にする

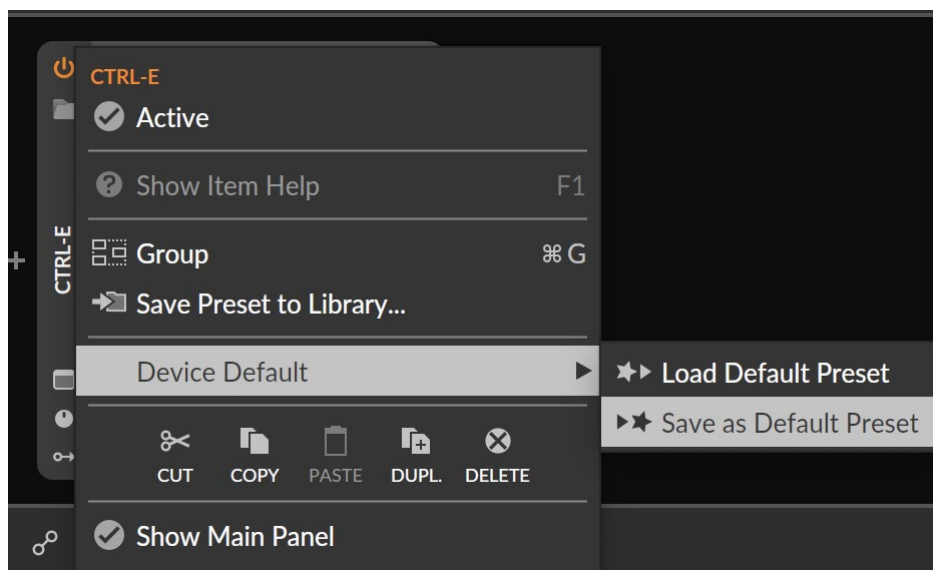
Bitwig Studio で Ctrl-E を正しく動作させるには、プラグインで「Use MPE」を常に有効にする必要があります。この設定は、適切な MPE 再生エクスペリエンスと、Osmose CE がキーボードから直接 Ctrl-E のブラウジングコントロールにアクセスするために必要です。

この設定が今後の Ctrl-E インスタンスで自動的に呼び出されるようにするには、次の手順を実行してください。

1. Bitwig Studio で Ctrl-E プラグインデバイスを選択します。
2. デバイス設定で「Use MPE」が有効になっていることを確認します。



3. プラグイン名が表示されている Ctrl-E デバイスヘッダーを右クリックします。
4. Device Default]> Save as Default Preset を選択します。



Bitwig Studio は、Ctrl-E を押すたびにこの設定を自動的に呼び出します。

## Cubase

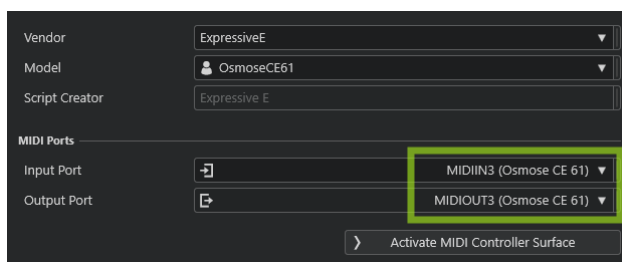
### 1) DAW コントロールスクリプトのインストール

Cubase 用の DAW コントロールスクリプトをインストールするには、Expressive E ユーザーアカウントにログインし、「my products」をクリックします。Osmose CE をまだ登録していない場合は、まず登録を行ってください。「my products」ページで Osmose CE を探し、download ボタンをクリックします。お使いのコンピューター (Mac または Windows) に合った DAW スクリプトを選択してください。スクリプトがダウンロードされたら、解凍して Cubase スクリプトをインストールします。画面の指示に従ってください。インストール前に Cubase が閉じていることを確認してください。

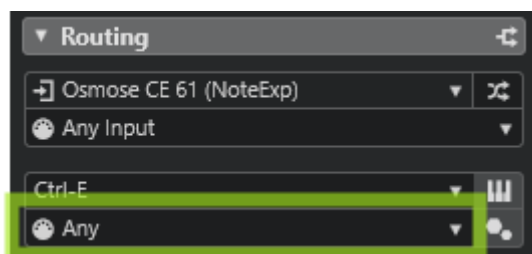
インストールが完了したら、Cubase を開き、以下の設定が正しいことを確認してください。

### 2) 推奨設定

自動的に動作しない場合は、Studio > MIDI Remote Manage に進み、「Add Surface」をクリックします。ベンダーとして「ExpressiveE」を選択し、Osmose CE のモデルを選択します。コントロールサーフェスの入出力には、ポート 3 (macOS では「daw control」と表示) を選択してください。



インストゥルメントトラックには、入力としてノートエクスプレッションデバイス Osmose CE (macOS では「Osmose CE play」と表示される USB MIDI ポート 1) を使用し、すべての MIDI チャンネル (Any) をプラグインに転送するようにしてください。



## Logic Pro

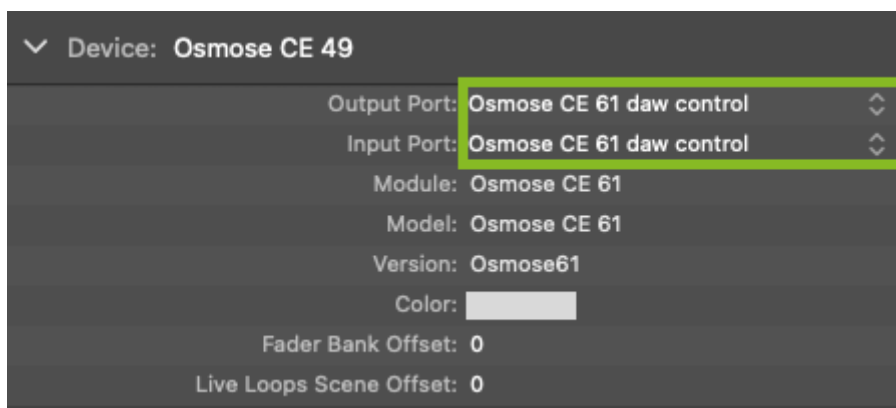
### 1) DAW コントロールスクリプトのインストール

Logic Pro 用の DAW コントロールスクリプトをインストールするには、Expressive E ユーザーアカウントにログインし、「my products」をクリックします。Osmose CE をまだ登録していない場合は、まず[登録](#)を行ってください。「my products」ページで Osmose CE を探し、ダウンロードボタンをクリックします。Mac 用 DAW スクリプトを選択してください。スクリプトがダウンロードされたら、解凍して Logic Pro スクリプトをインストールします。画面の指示に従ってください。インストール前に Logic Pro が閉じていることを確認してください。

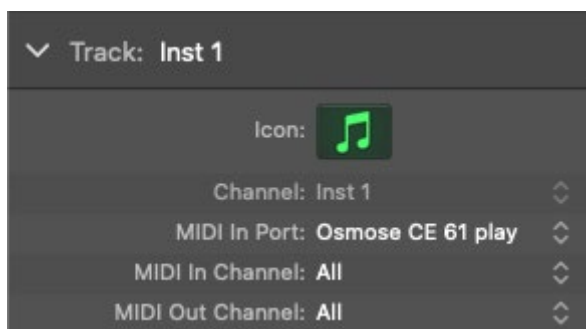
インストールが完了したら、Logic Pro を開き、以下の設定が正しいことを確認してください。

### 2) 推奨設定

自動的に動作しない場合は、Control Surfaces -> Setup に進み、Osmose CE デバイスの出力ポートと入力ポートを確認してください。両方ともポート 3「DAW コントロール」に設定する必要があります。



Osmose CE でコントロールしたい楽器トラックの MIDI 入力ポートとして、「Osmose CE play」ポートを選択してください。



## DAW コントロールモードの概要

DAW コントロールモードは、Osmose CE を DAW に自然に統合できるように設計されています。

DAW コントロールモードは、以下の DAW で利用可能です。

- ・ Ableton Live 12 以降
- ・ Bitwig Studio 6 以降
- ・ Steinberg Cubase 15 以降
- ・ Apple Logic Pro 12 以降

DAW コントロールモードは、主に以下の 3 つの使用例を中心に構成されています。

### 1) トランスポートパネルと DAW の統合

トランスポートコントロールやメトロノーム、再生ヘッドとループの管理、トラック、シーン、クリップのナビゲーション、現在選択されているトラックのミックスコントロールなど、主要な DAW 機能を楽器から直接操作できます。アンドウ/リドゥ、テンポ、クオンタイズなどの追加機能も利用可能です。

### 2) Ctrl-E トラックでの使用

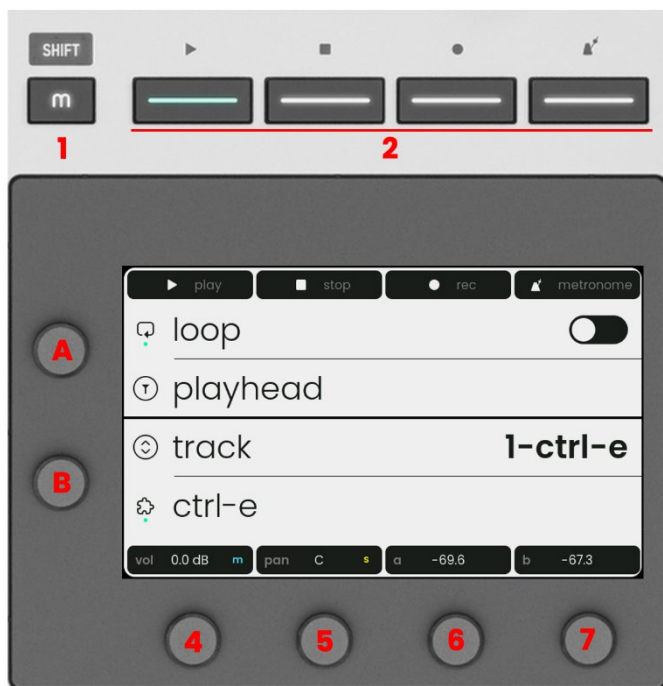
DAW コントロールモードでは、Ctrl-E プラグインとの連携も可能です。Ctrl-E が動作している DAW トラックを選択すると、Osmose CE はプラグインを検出し、Ctrl-E モードに切り替わり、プラグアンドプレイの MPE 体験に必要なキー設定を自動的に構成します。Ctrl-E モードでは、Osmose CE から直接 Ctrl-E ブラウザを詳細に操作できるため、インストゥルメントから離れることなく、プラグイン、バンク、タグ、プリセットを探索できます。

### 3) 通常の DAW トラックの場合

Ctrl-E トラックから離れると、Osmose CE は自動的に外部 MIDI コントロールに戻り、保存済みの MIDI 設定で通常の MIDI インストゥルメントやプラグインを演奏し続けることができます。

## トランスポートパネルと DAW の統合

### トランスポートパネルを開く



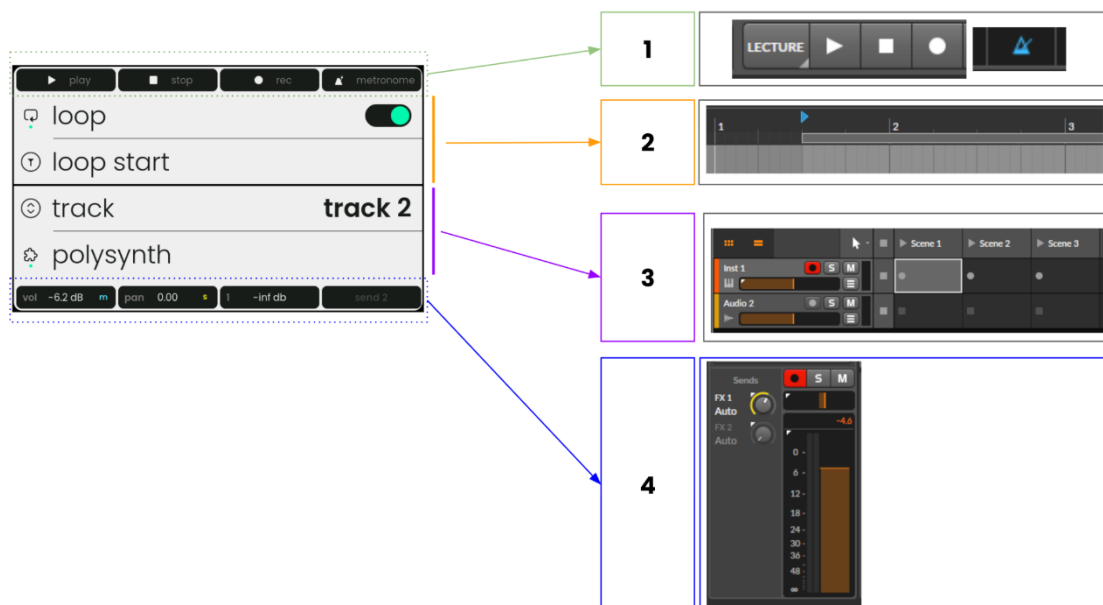
トランスポートパネルを使用すると、DAW のトランスポート操作とナビゲーション操作に素早くアクセスできます。

DAW コントロールモードで、m ボタン(1)を押すとトランスポートパネルが開きます。もう一度 m ボタンを押すと閉じ、前のメニューに戻ります。

トランスポートパネルは、現在のメニューの上にオーバーレイとして表示されます(2)。つまり、4 つのメインメニューのいずれからでもアクセスでき、閉じると元のメニューに戻ります。

※ m ボタンを長押しすると、トランスポートパネルに一時的にアクセスできます。これは素早い操作に便利で、m ボタンを離すとすぐに現在のメニューに戻ります。

## トランスポートパネルの概要



トランスポートパネルは 4 つのグループに分かれており、Osmose CE から DAW の主要なコントロールへ素早くアクセスできます。

### グループ 1 – トランスポートコントロール

DAW の主要なトランスポート機能(再生、停止、録音、メトロノーム)を操作します。

### グループ 2 – 再生ヘッドとループの管理

プロジェクトのタイムラインをナビゲートし、ループの有効化、位置調整、長さ変更など、ループ関連の機能を管理します。

### グループ 3 – トラック、シーン、クリップのナビゲーション

Osmose CE からトラック、シーン、クリップを直接ナビゲートします。利用可能なナビゲーションオプションは、使用している DAW によって異なります。すべての DAW がシーンやクリップをサポートしているわけではありません。

### グループ 4 – ミックスコントロール

現在選択されているトラックのミックス設定(ボリューム、パン、ミュート、ソロ、および利用可能な場合はセンド 1/センド 2)を操作します。

## 1 - 再生ヘッドとループのマネージメント



トランスポートパネルを開くと、ディスプレイ上部の 4 つのボタンで DAW の主要なトランスポート機能を操作できます。

**ボタン 1** を押すと再生を開始または一時停止します。

**ボタン 2** を押すと再生を停止します。

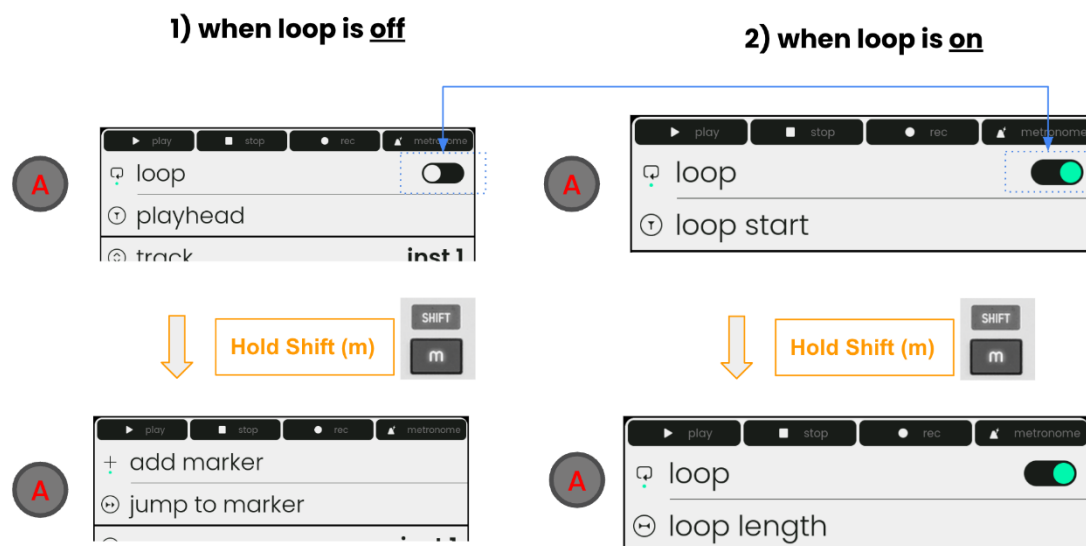
**ボタン 3** を押すと録音を開始または停止します。

**ボタン 4** を押すとメトロノームのオン/オフを切り替えます。

現在のトランスポート状態は画面とボタンの LED で表示されるため、どの機能が現在有効になっているかを簡単に確認できます。

## 2 - 再生ヘッドとループの管理

トランスポートパネルが開いている場合、エンコーダーA を使用すると、再生ヘッド、ループ、マーカー関連のコントロールにアクセスできます。



### 1) ループがオフの場合

エンコーダーA を回すと、再生ヘッドがタイムライン上を移動します。

エンコーダーA を押すと、ループがアクティブになります。

Shift キー(m)を押しながら操作すると、マーカーコントロールが利用できます。エンコーダーA を押すと、現在の再生ヘッド位置にマーカーが追加されます。エンコーダーA を回すと、マーカー間を移動できます。

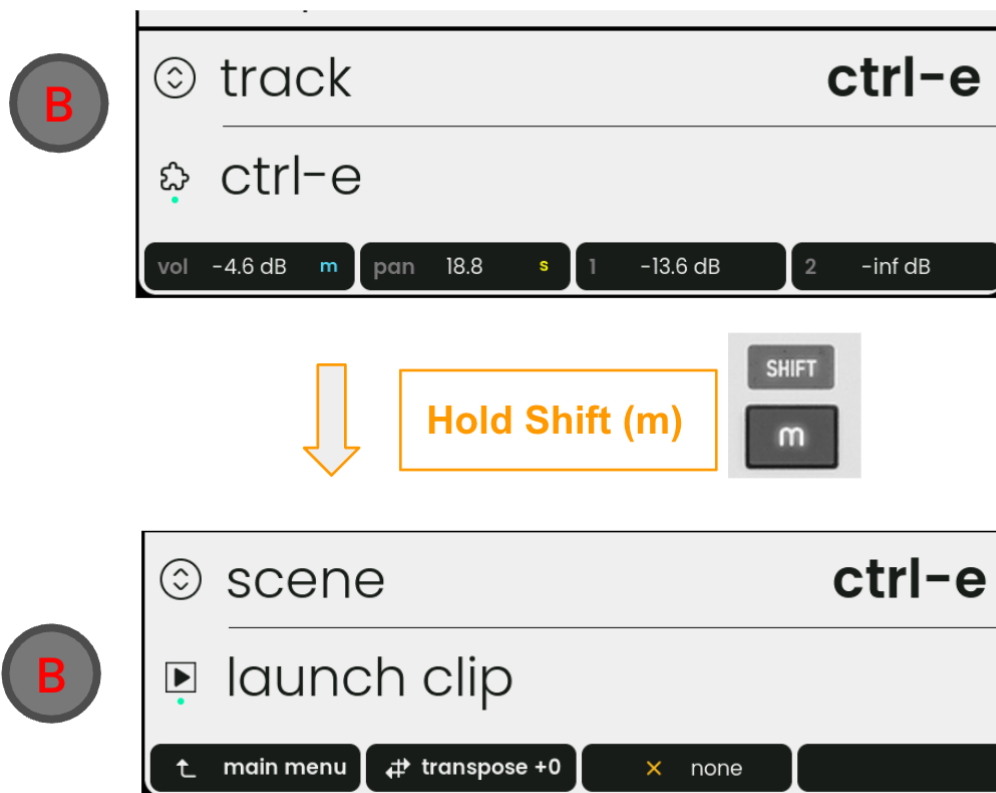
### 2) ループがオンの場合

エンコーダーA を回すと、ループの長さを維持したまま、ループの開始位置を移動できます。

もう一度エンコーダーA を押すと、ループがオフになります。

Shift キー(m)を押しながらエンコーダーA を回すと、ループの長さを調整できます。

### 3 - トラック、シーン、クリップのナビゲーション



トランスポートパネルが開いているときは、エンコーダーB でトラック、シーン、クリップのナビゲーションにアクセスできます。

エンコーダーB を回してトラック間を移動します。

エンコーダーB を押すと、選択したトラックのプラグインウィンドウを開閉できます。この機能は現在 Ableton Live では利用できません。

Shift キー(m)を押しながら操作すると、追加のシーンおよびクリップコントロールにアクセスできます (Ableton Live と Bitwig Studio のみ)。エンコーダーB を回してシーン間を移動したり、エンコーダーB を押して選択したトラックのクリップを起動したりできます。

#### 4 - ボリューム、パン、ミュート、ソロ、センド 1 / センド 2



トランスポートパネルが開いている場合、エンコーダー1~4 で現在選択されているトラックのミックスコントロールにアクセスできます。

エンコーダー1を回すとトラックのボリュームを調整できます。エンコーダー1を押すとトラックのミュート/ミュート解除ができます。

エンコーダー2を回すとトラックのパンを調整できます。エンコーダー2を押すとトラックのソロを有効/無効にできます。

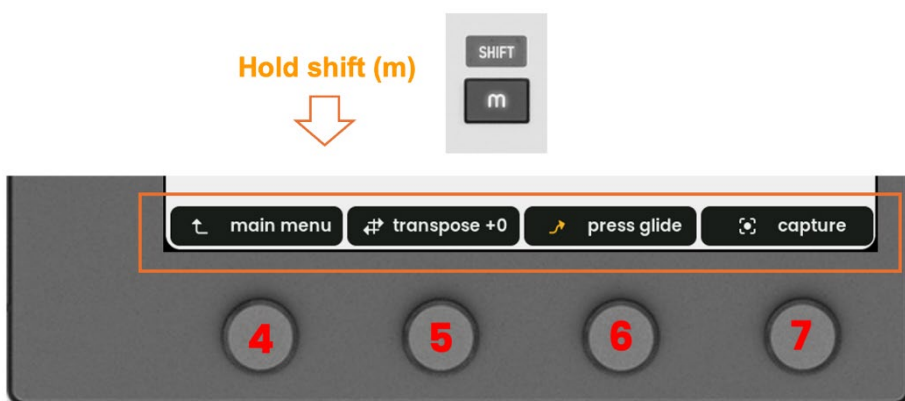
エンコーダー3を回すとセンド1を調整できます。

エンコーダー4を回すとセンド2を調整できます。

センド1とセンド2のコントロールは、DAWプロジェクトのルーティングとセンド設定によって異なります。対応するセンド、バス、AUX、またはFXチャンネルが使用できない場合、これらのコントロールは無効になることがあります。

## 下部のアクションバー

ナビゲーション画面のどこにいても(トランスポートパネルでも、4つのメインメニューのいずれかでも)、Shift キー(m)を押しながら操作すると、ボトムのアクションバーが表示されます。



アクションバーでは、グローバルショートカットやコンテキストに応じたショートカットに素早くアクセスできます。

**1 - メインメニュー** - エンコーダー4を押すと[メインメニュー](#)に戻ります。

**2 - トランスポーズ** - エンコーダー5を回すと、キーボードを半音単位でトランスポーズできます。

**3 - playing ショートカット** - エンコーダー6を押すと、選択した [playing 機能](#) (プレッシャーグライドまたはエクスプレッシブアルペジエーター)を有効または無効にできます。

**4 - キャプチャ** - エンコーダー7を押すと、DAW の MIDI キャプチャ機能が起動します(利用可能な場合)。MIDI キャプチャ機能は、録音していなくても、直前に演奏した音符を取得します。

※ この機能は Ableton Live、Cubase、Logic Pro で利用できます。Bitwig Studio では利用できません。

## macro(マクロ)

### 1) トラックマクロのコントロール

DAW コントロールモードが有効になっている場合、2 番目のメニューボタンを押して adjust メニューを開きます。最初に表示されるタブが macro タブです。



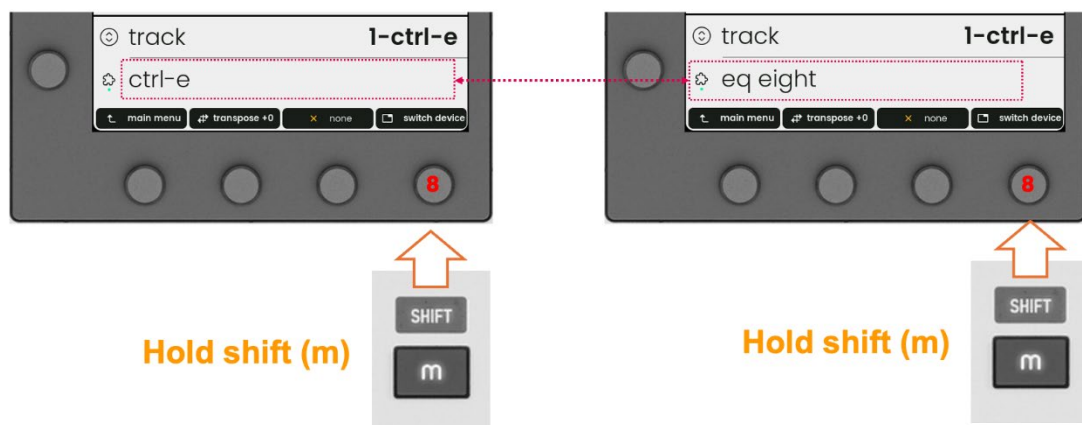
このタブには、現在選択しているトラックのマクロに関連付けられた 8 つのマクロが表示されます。これにより、マウスを使わずに、選択したトラックの主要パラメーターを Osmose CE から直接調整できます。



各エンコーダーは 1 つの列をコントロールし、押すとその列の上限と下限のパラメーターが切り替わります。例えば、エンコーダー5 を回して最初の列の上限パラメーターを調整し、次にエンコーダー5 を押すと、同じ列の下限パラメーターに切り替わります。

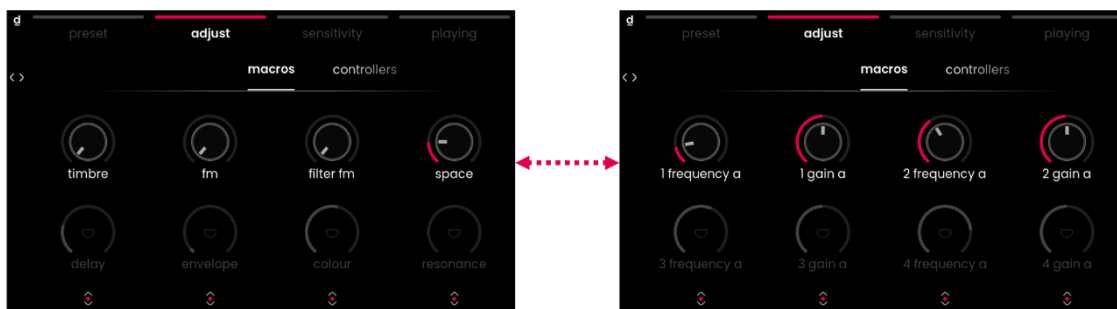
## 2) トラックデバイスの切り替え

Ableton Live と Bitwig Studio では、選択したトラック上のどのデバイスをマクロタブでコントロールするかを切り替えることもできます。



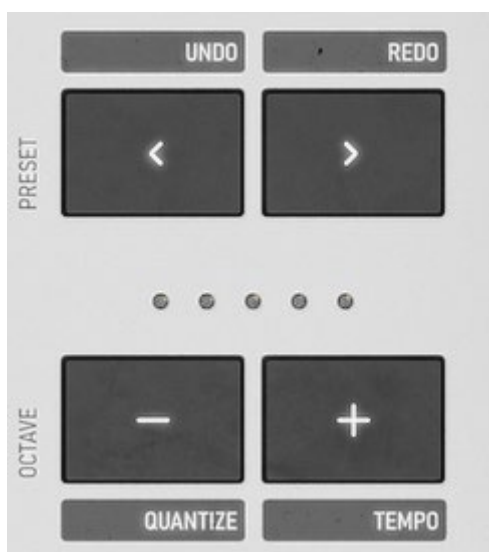
Shift キー(または M キー)を押しながら操作バーを表示すると、下部にアクションバーが表示されます。次に、エンコーダー8 を回して「switch device」ボタンを操作し、現在のトラック上のデバイスを切り替えることができます。

例えば、トラックにシンセプラグインと EQ デバイスの両方が含まれている場合、「デバイス切り替え」ボタンを使って、8 つのマクロコントロールでシンセと EQ のどちらを調整するかを選択できます。



## 追加機能

一部の DAW コントロール機能は、メインパネルのショートカットキーからアクセスできます。ナビゲーション画面のどこにいても、**Shift キー(m)**を押しながらプリセットボタンとオクターブボタンを使用すると、以下の機能にアクセスできます。

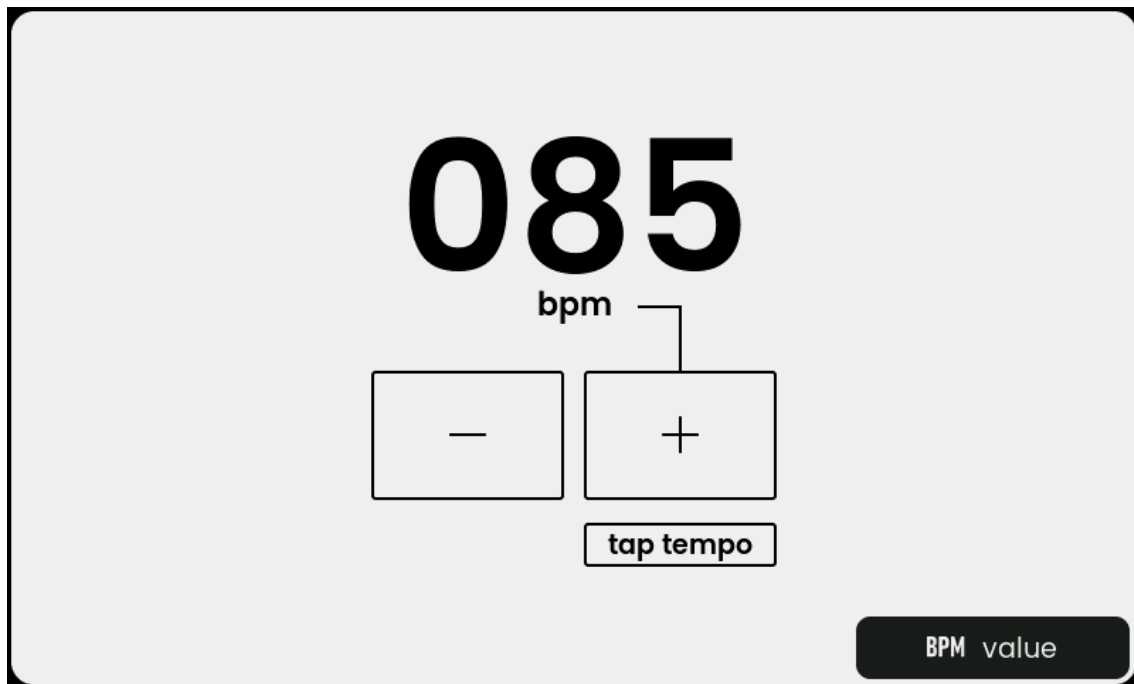


**undo** - **Shift キー(m)**を押しながら左プリセットボタン(<)を押すと、直前の操作を取り消します。

**redo** - **Shift キー(m)**を押しながら右プリセットボタン(>)を押すと、直前の操作をやり直します。

**quantize** - **Shift キー(m)**を押しながら左オクターブボタン(-)を押すと、DAW の設定に従って現在の選択範囲をクオンタイズします。

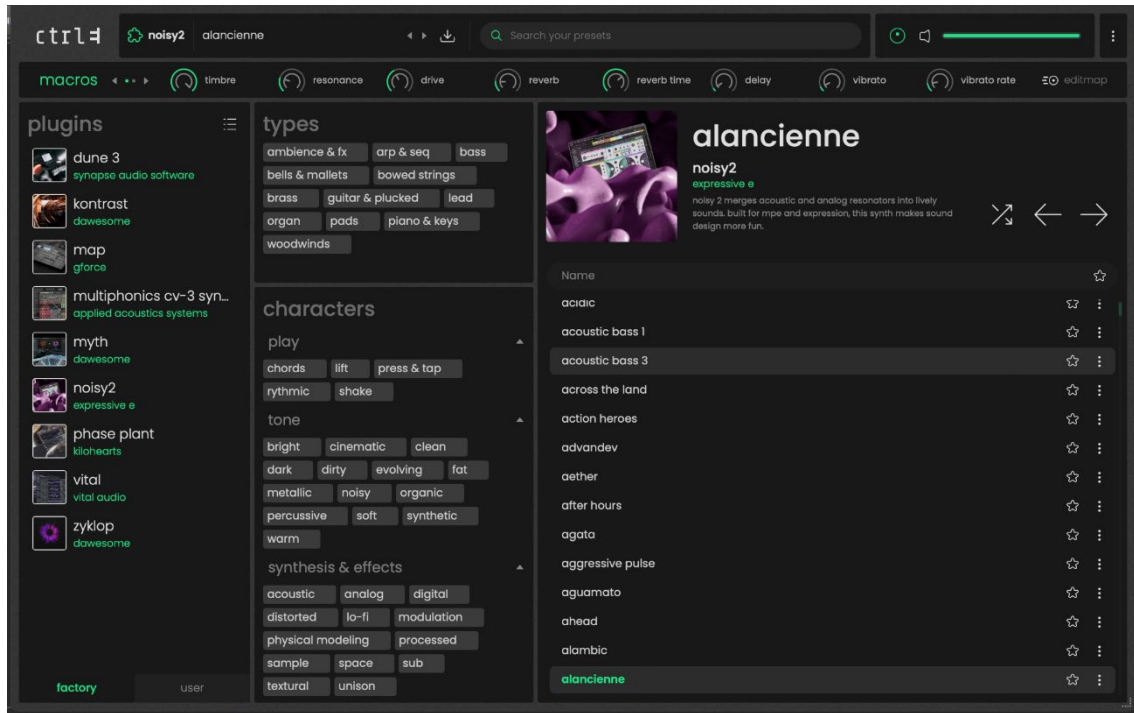
**tempo** - **Shift キー(m)**を押しながら右オクターブボタン(+)を押すと、テンポ画面が開きます。



テンポ画面では、エンコーダー4 を回してテンポを調整するか、右オクターブボタン(+)を繰り返し押し続けてテンポをタップします。Shift キー(m)またはメニューボタンのいずれかを押し続けると画面が終了します。

# Ctrl+Eトラックでの DAW コントロールの使用

## Ctrl+E インテグレーションの概要



### 1) Ctrl-E とは？

Osrose CE には、表現力豊かなサウンドを実現する Expressive E のソフトウェアプラットフォーム、Ctrl-E が付属しています。Ctrl-E を使えば、Osrose の鍵盤に合わせて丁寧に調整された、MPE 対応の 980 種類もの豊富なプリセットを含むライブラリにアクセスできます。

このサウンドライブラリを提供するために、Ctrl-E には 2 つのフルインストゥルメントが含まれています。パワフルで多機能な Vital と、Dawesome 社製の革新的な Zyklon です。Ctrl-E のサウンドライブラリを最大限に活用するには、Vital と Zyklon が正しくインストールされていることを確認してください。

Ctrl-E には、Kilohearts の Phase Plant、Applied Acoustics Systems の Multiphonics、Dawesome の Kontrast と Myth、GForce の MAP、Expressive E の Noisy 2 といった著名なシンセサイザーのサウンドエンジンも統合されています。

## 2) MPE 設定要件

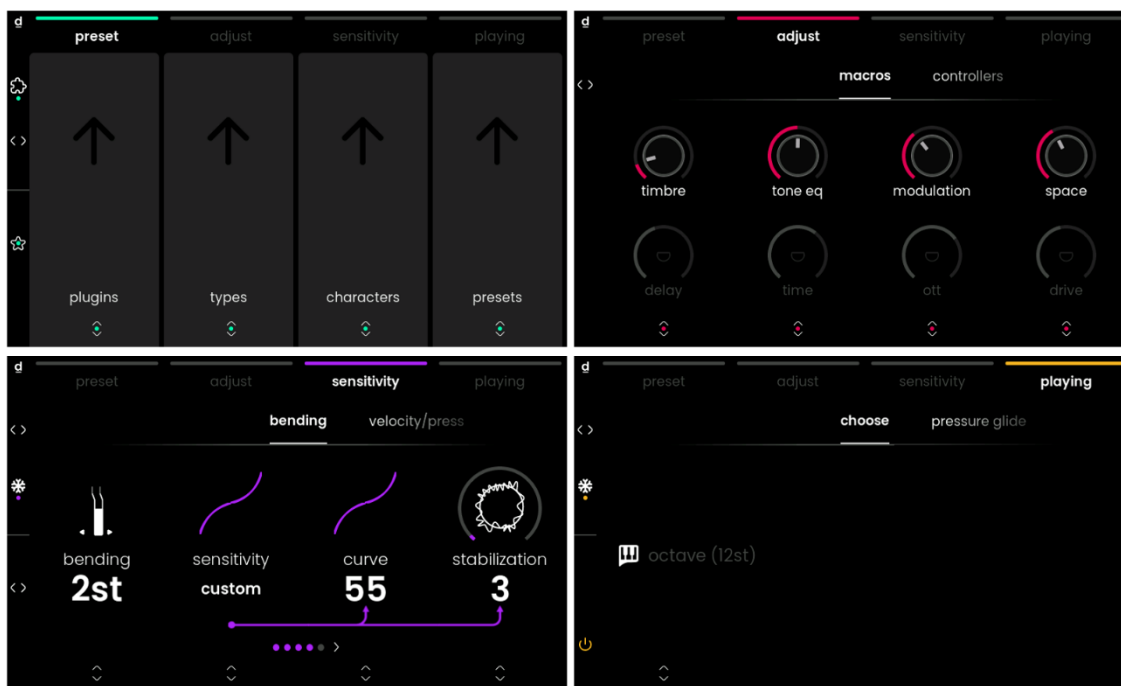
※ Ableton Live や Bitwig Studio などの DAW で Ctrl-E を Osmose CE と正しく連携させるには、MPE を適切に有効化する必要があります。詳細については、[Ableton Live の設定](#)および[Bitwig Studio の設定](#)に関するセクションを参照してください。

## 3) Ctrl-E の自動設定

DAW コントロールモードがアクティブな状態で、Ctrl-E が動作している DAWトラックを選択すると、Osmose CE は自動的に Ctrl-E モードに切り替わります。これにより、必要な内部 MPE 設定が自動的に構成され、専用の Ctrl-E sensitivity 設定が読み込まれ、Osmose CE の画面から高度な Ctrl-E ブラウザナビゲーションに直接アクセスでき、プラグアンドプレイの MPE 体験が実現します。

## 4) Ctrl-E モードのメニュー

Osmose CE が自動的に Ctrl-E モードに切り替わると、4 つのメインメニューが Ctrl-E ワークフローに合わせて最適化されます。



### preset メニュー

preset メニューを使用すると、Osmose CE から直接 Ctrl+E ブラウザを介して高度なナビゲーションを実行できます。そこから、プラグイン、タイプ、文字、プリセットなどを調べることができます。

### **adjust メニュー**

adjust メニューには、**macro** と **controllers** の 2 つのタブがあります。マクロタブでは、Osmose CE から直接マクロをコントロールできます。

→詳細については、[macro タブ](#)のセクションをご覧ください。

**controller** タブでは、モジュレーションスライダー、ペダル 1、ペダル 2 でコントロールする MIDI CC を定義できます。

→詳細については、[controllers タブ](#)のセクションをご覧ください。

### **sensitivity メニュー**

sensitivity メニューには、標準の sensitivity 設定に加え、Ctrl+E で設定できる sensitivity タブがあります。

→詳細については、[sensitivity メニュー](#)をご覧ください。

### **playing メニュー**

playing メニューは、External MIDI モードと同じです。

→詳細については、[playing メニュー](#)のセクションをご覧ください。

## preset メニュー

再生記号の下にあるメニューボタン 1 を押すと、Ctrl+E のプリセットメニューが開きます。

ここでは、Osmose CE のエンコーダーを使って Ctrl+E を操作できます。



**エンコーダーA** は、Ctrl-E のファクトリープリセットとユーザープリセットを切り替えます。エンコーダーを押すと、DAW で Ctrl-E のプラグインウィンドウを開閉できます。

**エンコーダーB** を押すと、プリセットをお気に入り追加できます。長押しすると、お気に入りフィルタリングが切り替わり、お気に入りのみが表示されます。エンコーダーB をもう一度長押しすると、すべてのプリセットが表示されます。

**エンコーダー1** は、Ctrl-E 内のプラグインを切り替えます。押すと、現在選択されているプラグインがロードされます。選択したプラグインにサウンドバンクがインストールされている場合は、長押しすると利用可能なバンクが表示されます。エンコーダーでバンクを切り替えてバンクを選択するか、もう一度長押しするとプラグインリストに戻ります。プラグインリストが「プラグイン + ブランド」でソートされている場合、エンコーダーでブランド名が表示されているヘッダーを選択し、長押しするとすべてのプラグインを非表示にできます。

**エンコーダー2** は、プリセットのタイプとサブタイプを切り替えます。押すと選択できます。複数のタイプを選択することも可能です。このエンコーダーを長押しすると、現在のタイプ/サブタイプの選択がリセットされます。

**エンコーダー3** は、文字を切り替えます。押すと選択できます。複数の文字を選択できます。現在の選択をリセットするには、このエンコーダーを長押ししてください。

**エンコーダー4** でプリセットをスクロールします。押してプリセットを確定し、ロードします。

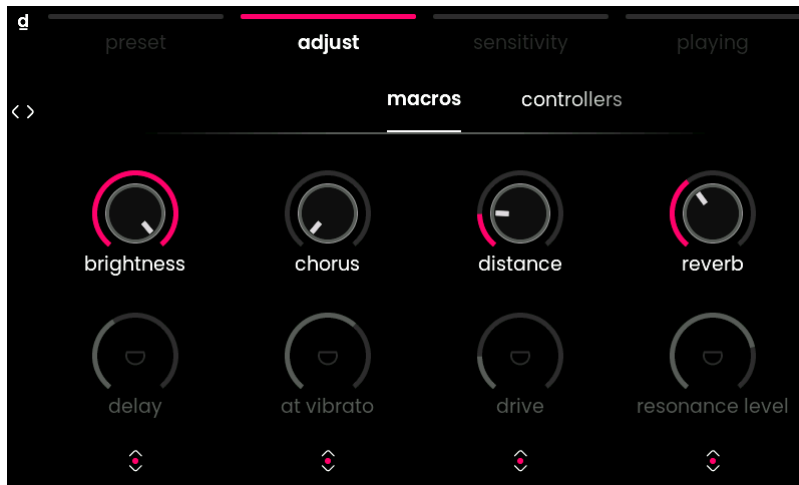
エンコーダー1~4 でスクロールすると、操作しているセクションの周囲に緑色の四角が表示されます。



現在のトラックで **Ctrl+E** がアクティブになっている場合、前のプリセット(<)ボタンと次のプリセット(>)ボタンを使ってプリセットをブラウズできます。これらのボタンを長押しすると「シャッフル」が有効になります。

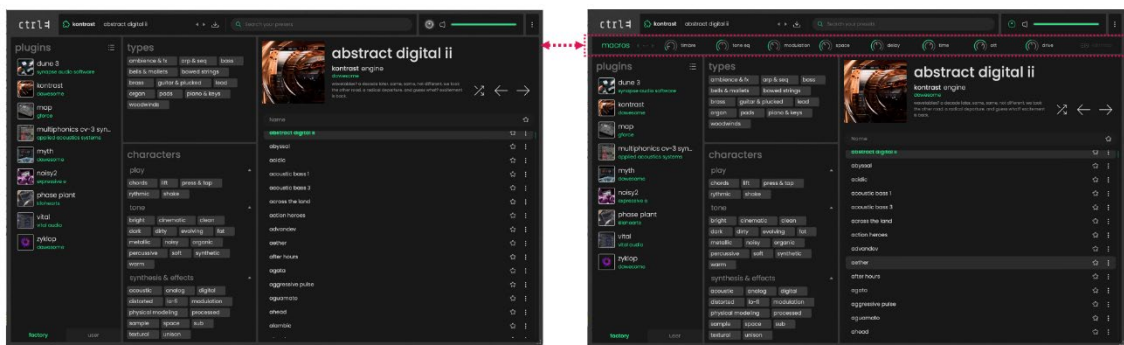
**Ctrl+E** で「plugin view」が表示されている状態で、メニューボタン1(プリセットメニュー)を押すと、プラグインビューが閉じ、ブラウザビューに戻ります。

## macros メニュー



メニューボタン 2(メニュー調整)を押すと、8 つのマクロが表示されます。これらのマクロを使うと、Ctrl-E 内のマクロを素早く操作できます。エンコーダー1~4 を左右にスクロールしてパラメータを調整し、クリックすると上部(1~4)と下部(5~8)のマクロを切り替えることができます。

このマクロタブを開いている状態で、メニューボタン 2 を何度か押すと、Ctrl-E のブラウザビューにマクロバーが表示されたり非表示になったりします。



## Ctrl-E sensitivity メニュー

前述のとおり、Ctrl-E モードが有効な場合、sensitivity メニューは External MIDI モードと同様に動作します。詳細については、External MIDI sensitivity メニューのセクションを参照してください。

ただし、ctrl-e sensitivity のタブが追加されています。このタブでは、Ctrl-Eトラックを選択するたびに読み込まれるデフォルトの sensitivity 設定を更新できます。



### saving オプション

現在の sensitivity 設定のうち、どの部分を保存するかを指定します。

新しいデフォルトの sensitivity 設定に、これらのタブの現在の設定を保存する場合は、「pressure」、「bending」、「aftertouch」を「yes」に設定してください。

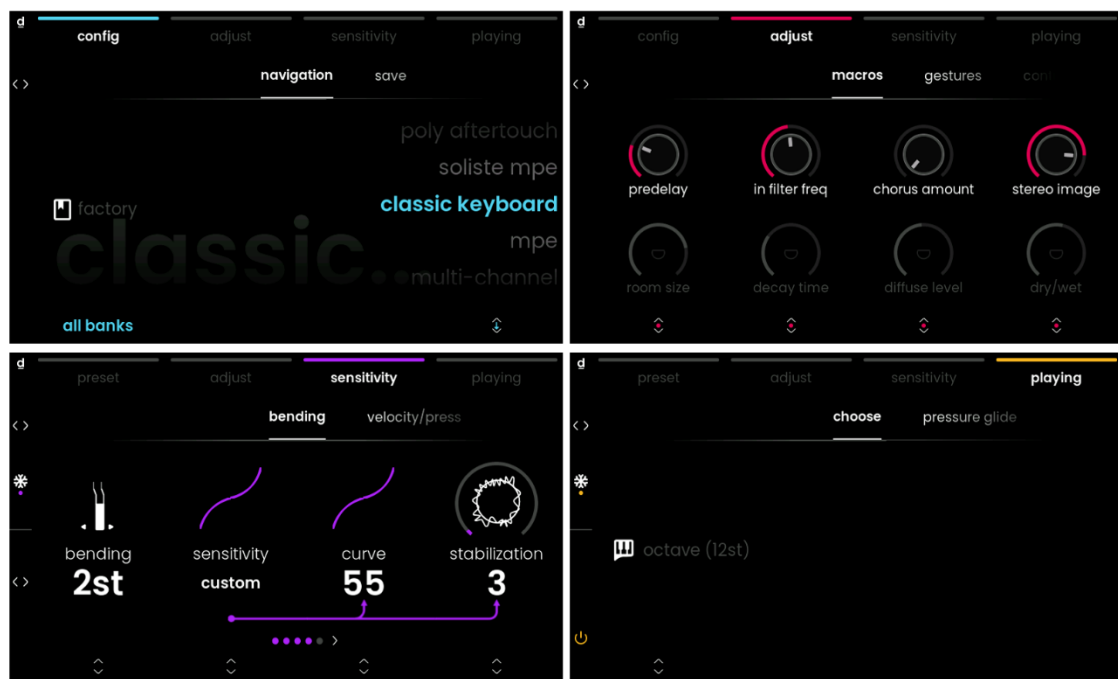
保存時にそのタブの設定を無視する場合は、オプションを「no」に設定してください。

### restore (復元)

Ctrl-E の sensitivity 設定が工場出荷時のデフォルトに戻ります。

## 通常のトラックで DAW コントロールを使用する場合

Ctrl+E でコントロールしているトラックから別の DAW トラックに移動すると、Osmose CE は自動的に External MIDI コントロールに切り替わります。



また、Ctrl+E モードに切り替える前にアクティブだった最後の External MIDI 設定も記憶します。

これにより、通常の DAW トラックで Osmose CE を引き続き使用しながら、External MIDI モードで利用できるすべての機能とクリエイティブな可能性を活用できます。

詳細については、[External MIDI モード](#)のセクションを参照してください。

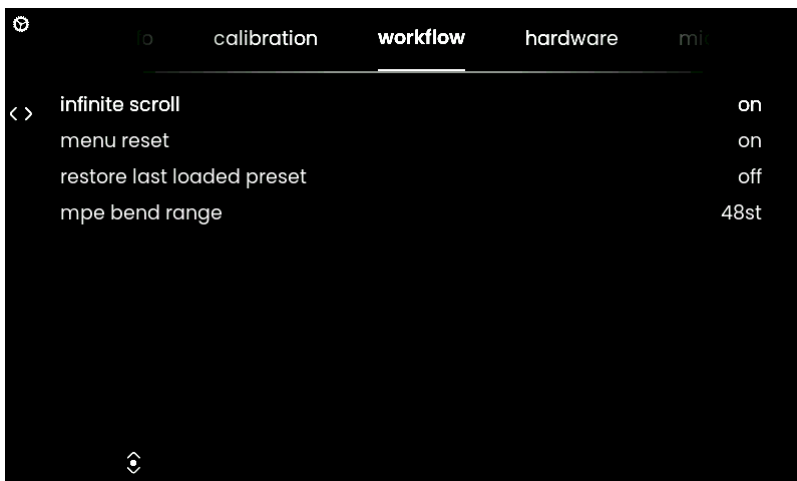
# settings

## settings 概要

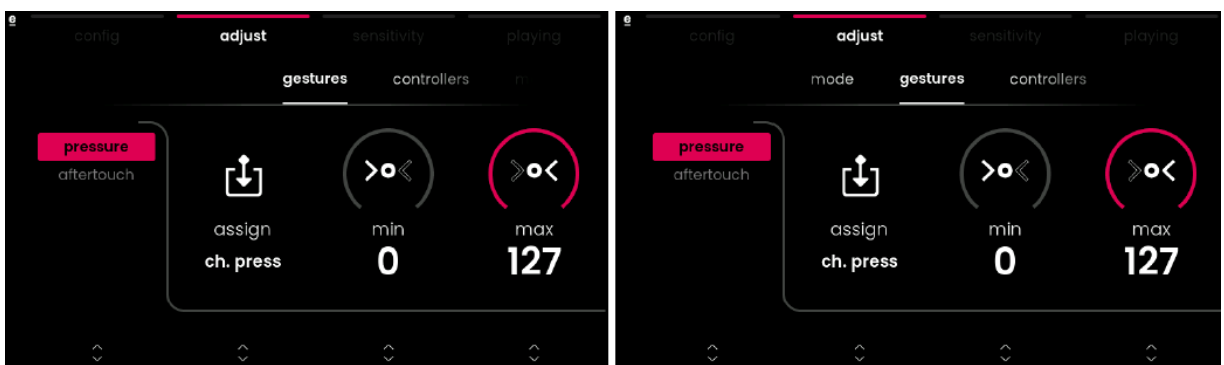
settings はメインメニュー画面からアクセスできます。settings メニューに入るには、モードボタンを押してから、画面下部のエンコーダー4(画面上の歯車アイコン(⚙)の下にあるボタン)を押してください。DAW コントロールモードの場合は、モードボタンを長押ししてエンコーダー1 をクリックするとメインメニューに戻り、そこから settings を開くことができます。

settings メニューを終了するには、モードボタンを押してください。変更を加えた場合は、設定が保存されたことを示す確認メッセージが表示されます。

## workflow タブ



infinite scroll (無限スクロール) - 有効にすると、メニューの最初と最後のタブ間を、途中のタブをスクロールすることなく移動できます。最初のスクリーンショットは無限スクロールをオフにした状態、2 番目のスクリーンショットは infinite scroll を有効にした状態です。

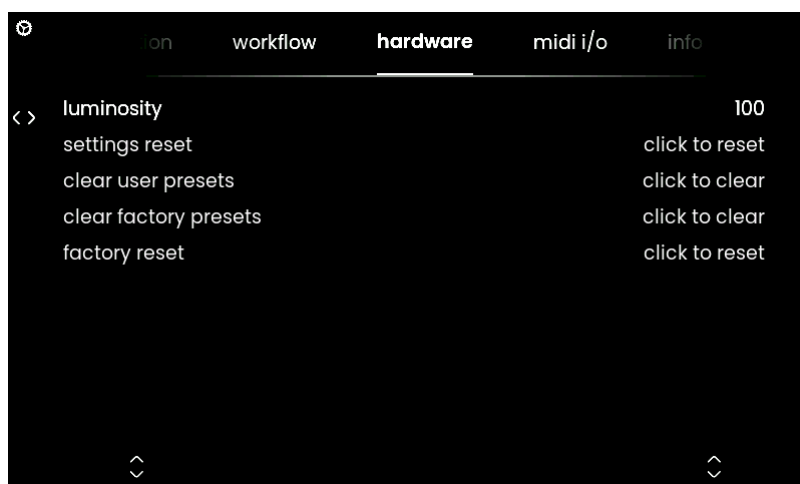


**menu reset(メニューリセット)** - 有効にすると、メニューを切り替える際に、最後にアクセスしたタブではなく、常に最初のタブに戻ります。

**restore last loaded preset(最後に読み込んだプリセットを復元する)** - 有効にすると、Osmose CE のシャットダウン前にアクティブだった最後の MIDI 設定プリセットが、起動時に呼び出されます。

**mpe bend range(MPE ベンドレンジ)**、 - Osmose CE から送信される MPE のベンドレンジ (半音単位) を設定します。Osmose CE とコントロールする楽器の両方が同じ値に設定されていることを確認してください。ほとんどの場合、48st(半音)で問題ありません。

## hardware タブ



**luminosity(輝度)**: 画面の明るさを調整します。

**settings reset(設定リセット)**: 設定内のすべてのパラメーターを工場出荷時のデフォルト値にリセットします。

**clear user presets(ユーザープリセットのクリア)**: ユーザーバンク内のすべての MIDI 設定プリセットを削除します。

**clear factory presets (ファクトリープリセットのクリア)**: ファクトリーバンク内のすべての MIDI 設定プリセットを削除します。

**factory reset (工場出荷時設定へのリセット)**: Osmose CE のファームウェアを工場出荷時の状態に戻し、プリセットが一切インストールされていない状態にします。

## midi i/o タブ



Osmose CE を接続すると、USB ホストデバイス (通常はコンピューター) に 3 つの USB MIDI ポートが表示されます。Osmose CE Play、Osmose CE DAW Control、そして Osmose CE 背面の DIN MIDI 5 ピンジャックです。midi i/o タブでは、MIDI ポートの入出ルーティングを調整できます。

※ DAW control モードは、DAW および Ctrl+E との MIDI 通信専用であるため、このタブには表示されません。MIDI ノート情報の送受信は行いません。

### ext clock source

アルペジエーターの同期に使用する MIDI ポートを選択します。選択可能な MIDI クロックソースは以下のとおりです。

- ・ **1/2 USB Play** (デフォルト)
- ・ **2/2 DIN**

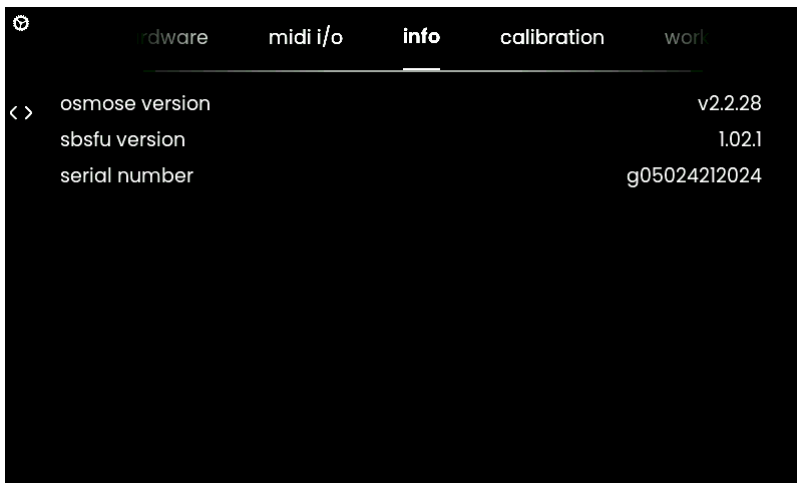
エンコーダー4を使用して選択します。DAWと同期する場合は、1/2 USB Play を選択してください。DIN ポート経由で外部ソース (MPE 対応シンセサイザーなど) と同期する場合は、2/2 DIN を使用してください。

### din mode

5 ピン DIN ジャックの動作を調整します。鍵盤で生成された MIDI データは、External MIDI モードで設定されたとおりに出力されます。これは USB MIDI ポートから送信されるデータと同じです。エンコーダー1でDINモードまでスクロールダウンし、エンコーダー4でモードを設定してください。

- ・ **1/3 default (デフォルト)**: DIN MIDI は、external MIDI モードで設定されたキーボード生成 MIDI データを出力します (つまり、Osmose CE Play ポートから送信されるデータと同じです)。
- ・ **2/3 thru**: デフォルトと同様ですが、DIN MIDI 入力に入力された MIDI データもすべて DIN MIDI 出力に転送されます。
- ・ **3/3 USB interface**: USB ポートにある MIDI データを DIN ポートにルーティングします。

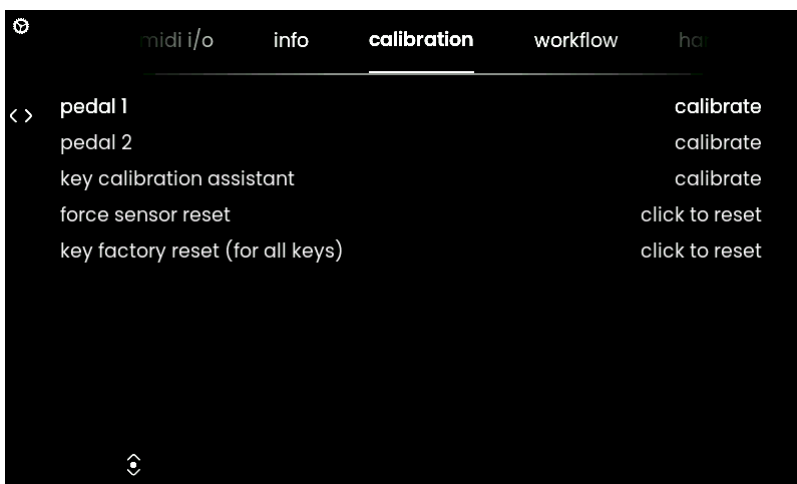
## Info タブ



こちらでは、Osmose CE に関する情報をご覧いただけます。

**osmose version** には、Osmose CE で動作しているオペレーティングシステムのバージョンが表示されます。**serial number** には、Osmose CE のシリアル番号が表示されます。

## Calibration タブ



### pedal 1 / pedal 2

これらを押すと、ペダル入力のキャリブレーションが開始されます。詳細は [pedal calibration \(ペダルキャリブレーション\)](#) をご覧ください。

### key calibration assistant

各キーの垂直方向、左方向、右方向の最大位置を定義することで、個々のキーを手動でキャリブレーションできます。このアシスタントを使用すると、個々の [キーの不規則な動作](#) を修正できます。

### **force sensor reset**

通常は起動時に実行されるセンサーキャリブレーションを、ユニットの電源を切らずに実行できます。センサー認識におけるランダムなエラーのトラブルシューティングや分析に役立ちます。

### **keys factory reset (for all keys)**

すべてのキーキャリブレーションデータを工場出荷時の状態にリセットできます。これにより、それまでに行った手動キャリブレーションはすべて無効になります。個々のキーのみを工場出荷時の状態にリセットしたい場合は、キーキャリブレーションアシスタントを使用してください。

## **pedal calibration(ペダルキャリブレーション)**

### **互換性と推奨事項**

業界にはペダルに関する確立された電氣的規格がないため、Osмосе CE で正常に動作するペダルは限られています。以下は、動作確認済みのペダルです。

Behringer FC600 [RTS 割り当て]

Clavia Nord Single Sustain

Dunlop Volume X Mini

Korg XVP-10

Lead Foot LFD-2

Moog EP-3 [モード: その他、ノブ最大]

M-AUDIO SP-2

M-AUDIO EX-P [モード: その他、ノブ最小]

Nektar NX-P Universal Expression Pedal [スイッチ「2」]

Roland DP-10 [スイッチ]

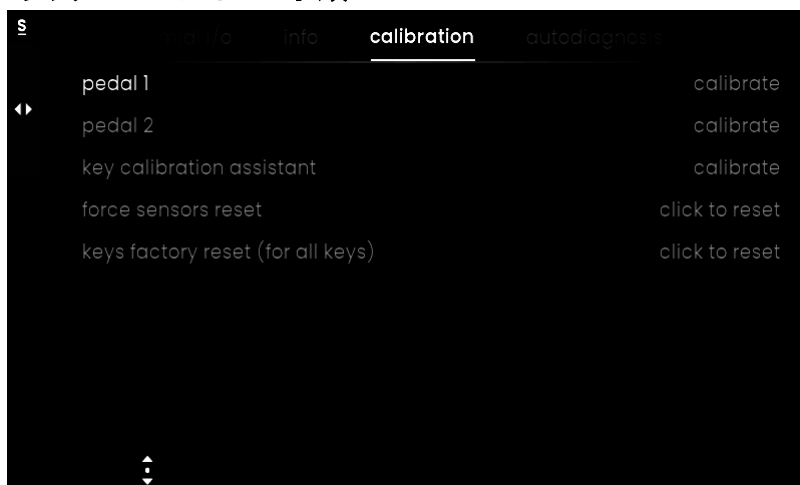
Yamaha FC3A

Yamaha FC4A

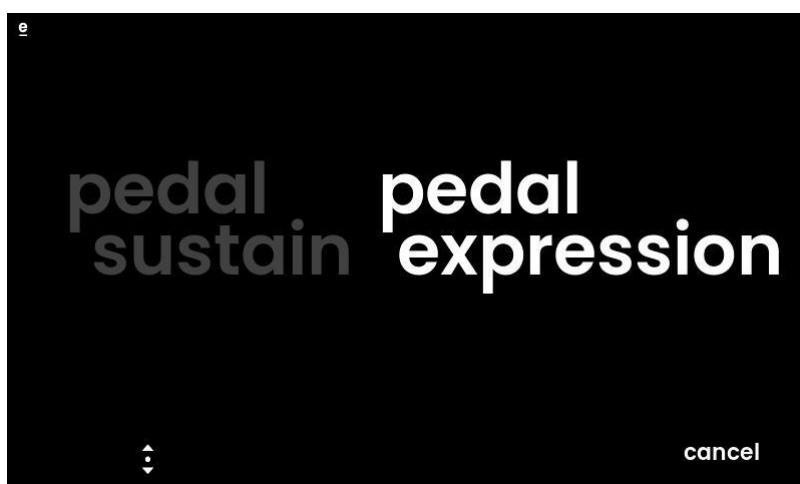
Yamaha FC7

リストに掲載されていないペダルで、Osмосе CE と相性の良いものを見つけた場合は、ぜひおすすめ情報をお寄せください。

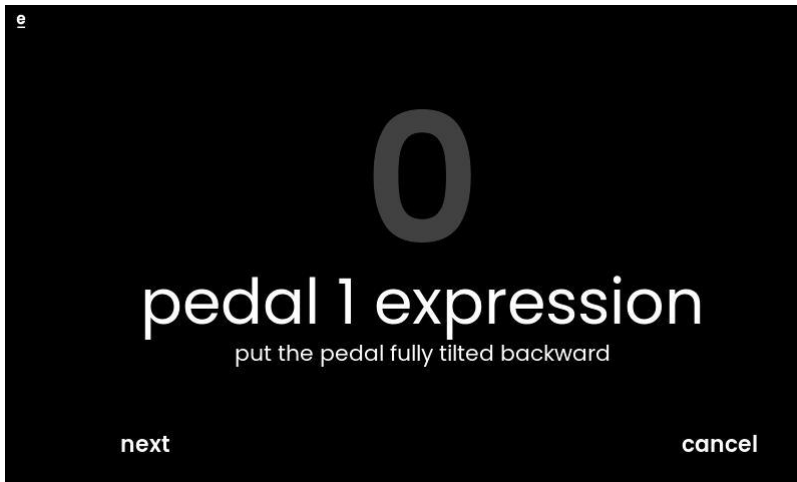
## キャリブレーションの手順



エンコーダー1 を回して、ペダルが接続されているペダル入力を選択し、クリックしてキャリブレーションプロセスを開始します。



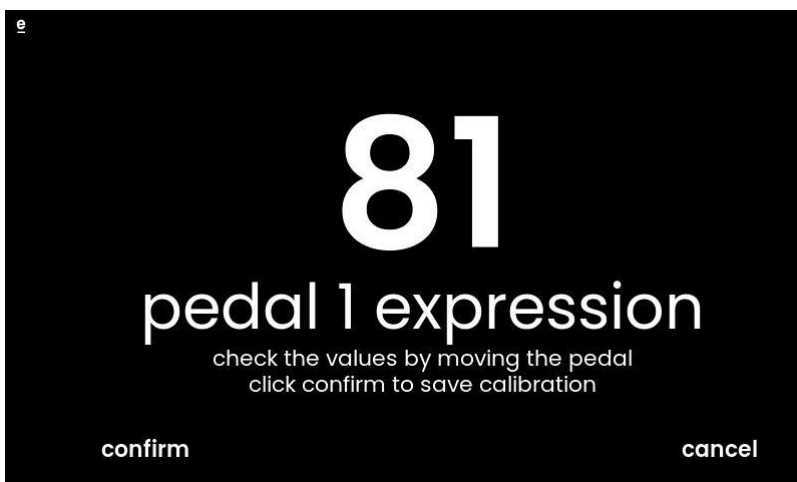
オン/オフスイッチ (pedal sustain: サステインペダル) を接続しているか、連続式またはハーフダンパーペダル (pedal expression: エクスプレッションペダル) を接続しているかを選択してください。



ペダルが最小位置にあること(またはオン/オフスイッチの場合は踏まれていないこと)を確認してから、「next」を押してください。



ペダルが最大位置(オン/オフスイッチの場合は踏み込んだ状態)になっていることを確認してから、「next」を押してください。



キャリブレーションプロセスの最後のページでは、0 から 127 までの値をスムーズに変化させることができるかどうかを確認できます。問題がなければ「confirm」をクリックしてください。

# リソース

Osmose CE の学習に役立つ動画やリンクをいくつかご紹介します。

## クリエイティブチュートリアル

- ・ [7 essential osmose tips](#)
- ・ [Osmose x MPE soft synths](#)
- ・ [better film scores with osmose](#)
- ・ [The Most Expressive Arpeggiator](#)

## 演奏テクニック

- ・ [12 Osmose Tricks with Jordan Rudess](#)
- ・ [play better leads with osmose – creative tutorial #4 \(piano diary\)](#)

## その他のリンク

- ・ [「MPE の ABC」](#) (Sound on Sound)  
ミュージシャン向けの MPE 入門として最適です。MPE コントローラーによって追加される 3 つの新しいポリフォニック表現方法 (圧力、ピッチベンド/ビブラートのための水平方向の動き、垂直方向の位置) について解説し、MPE の重要な変更点、つまり MIDI チャンネルを個々のノートとして再利用することでマルチティンバー性を犠牲にしてノートごとの表現を実現している点についても触れています。
- ・ [「MPE マスタークラス」](#) (MusicRadar)  
実践的な MPE の活用方法を深く掘り下げたハンズオンチュートリアルです。ノートごとに渡されるメッセージの種類を解説し、ポリフォニック表現を具体的に説明し、Ableton などの DAW 内で MPE を設定/編集する方法を示しています。
- ・ [「MPE MIDI ポリフォニック表現: 完全ガイド 2025」](#) (Pitch Innovations)  
初心者にも分かりやすい、最新のガイドです。MPE の歴史、DAW のサポート状況、そして AR Rahman のようなミュージシャンが Osmose を使って音符ごとのベンド、グライド、ダイナミクスを実演している実際の例などを解説しています。
- ・ [MPE: MIDI ポリフォニックエクスプレッション \(公式仕様と概要\) @MIDI.org](#)  
MPE 規格の公式ウェブサイトです。仕様を理解するために、ぜひブックマークしておきましょう。

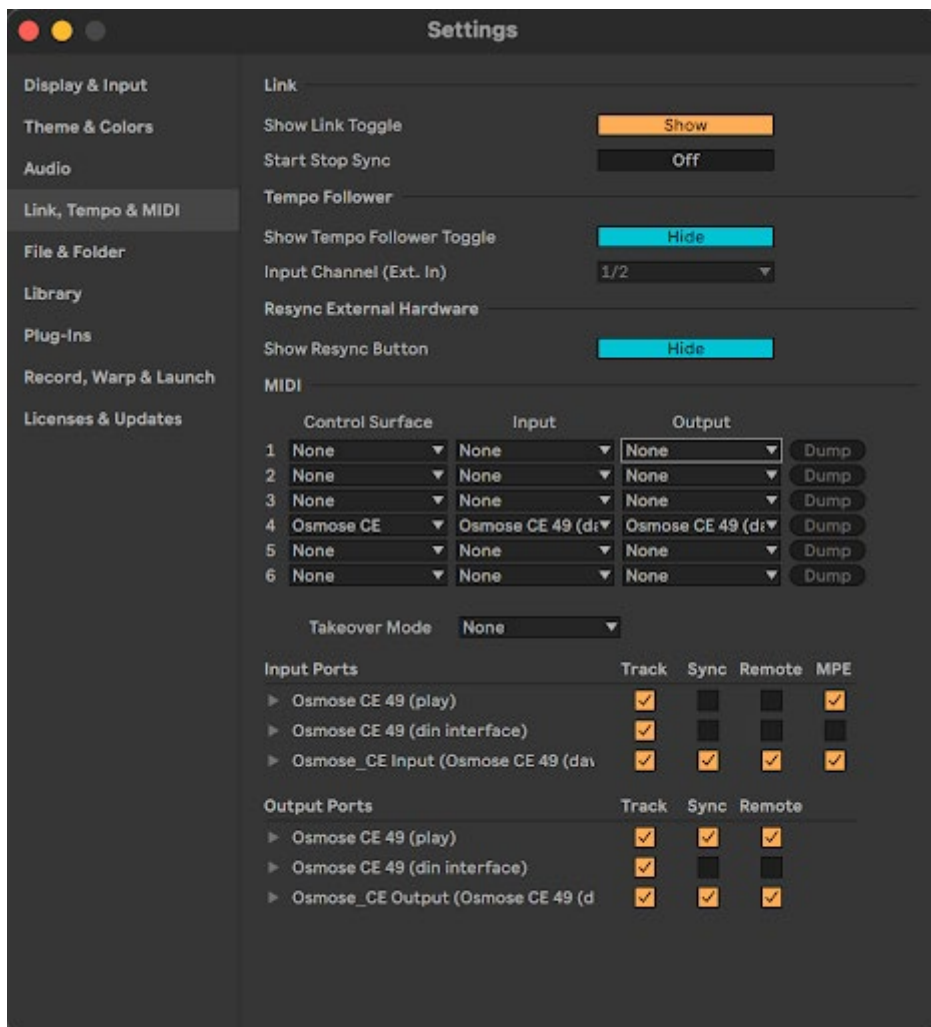
# トラブルシューティング

## DAW スクリプト

### Ableton Live

Osmose CE デバイスが自動的に検出されない場合は、以下の手順を実行してください。

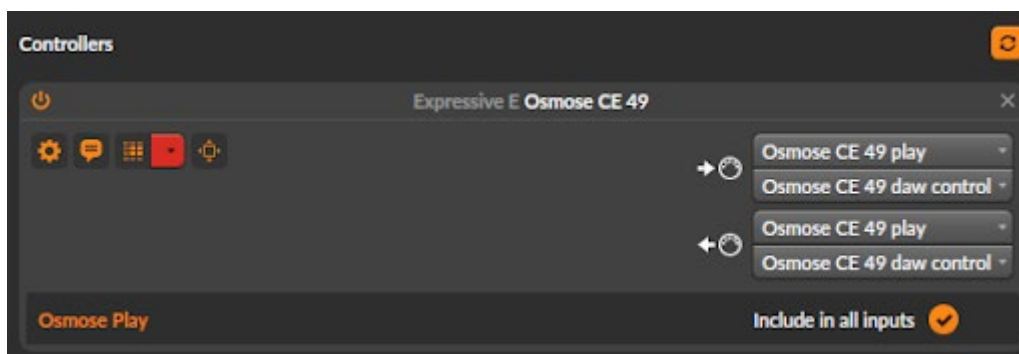
- Osmose CE の電源を切ります。
- 「Live > Settings... > Link, Tempo & MIDI」に移動します。
- 「MIDI」セクションで、以下のフィールドを設定して、使用していないコントロールサーフェスとの通信を無効にします。
  - Control Surface → **None**
  - Input → **None**
  - Output → **None**
- 以下のフィールドを設定して、Osmose CE デバイスとの通信を有効にします。
  - Control Surface → **Osmose CE**
  - Input
    - macOS:
      - Osmose CE 49 → **Osmose CE 49 daw control**
      - Osmose CE 61 → **Osmose CE 61 daw control**
    - Windows:
      - Osmose CE 49 → **MIDIIN3 (Osmose CE 49)**
      - Osmose CE 61 → **MIDIIN3 (Osmose CE 61)**
  - Output
    - macOS:
      - Osmose CE 49 → **Osmose CE 49 daw コントロール**
      - Osmose CE 61 → **Osmose CE 61 daw コントロール**
    - Windows:
      - Osmose CE 49 → **MIDOUT3 (Osmose CE 49)**
      - Osmose CE 61 → **MIDOUT3 (Osmose CE 61)**



- Osmose CE の電源を入れます

## bitwig

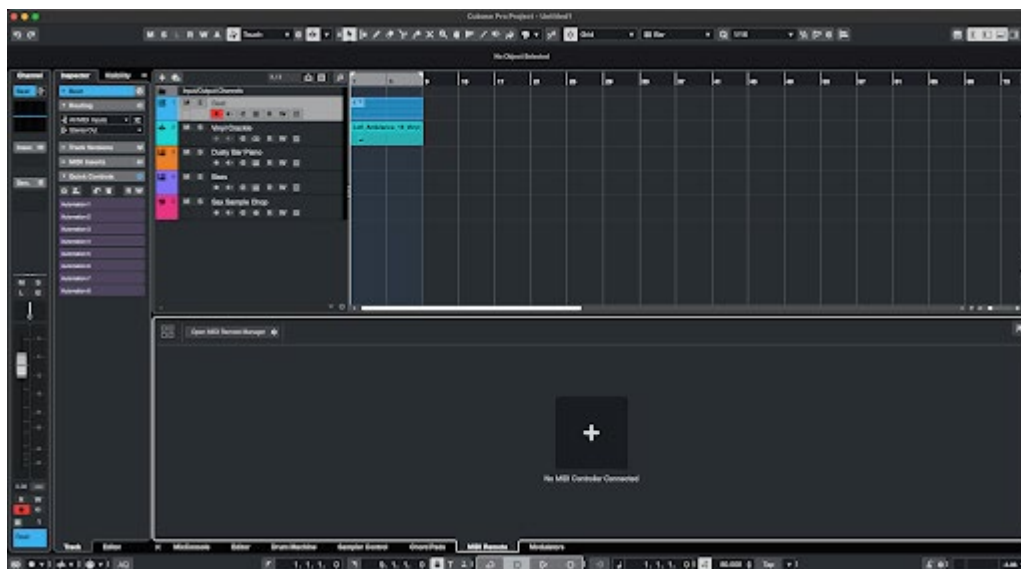
「Settings > Controllers」で MIDI ポートが正しく設定されていることを確認してください。



## Cubase

Osmose と Cubase 間の通信を DAW コントロールモードで手動で有効化するには:

- 「MIDI リモート」タブに移動します。
- 「MIDI コントローラーサーフェスを追加」ボタン(大きな「+」アイコン)をクリックします。

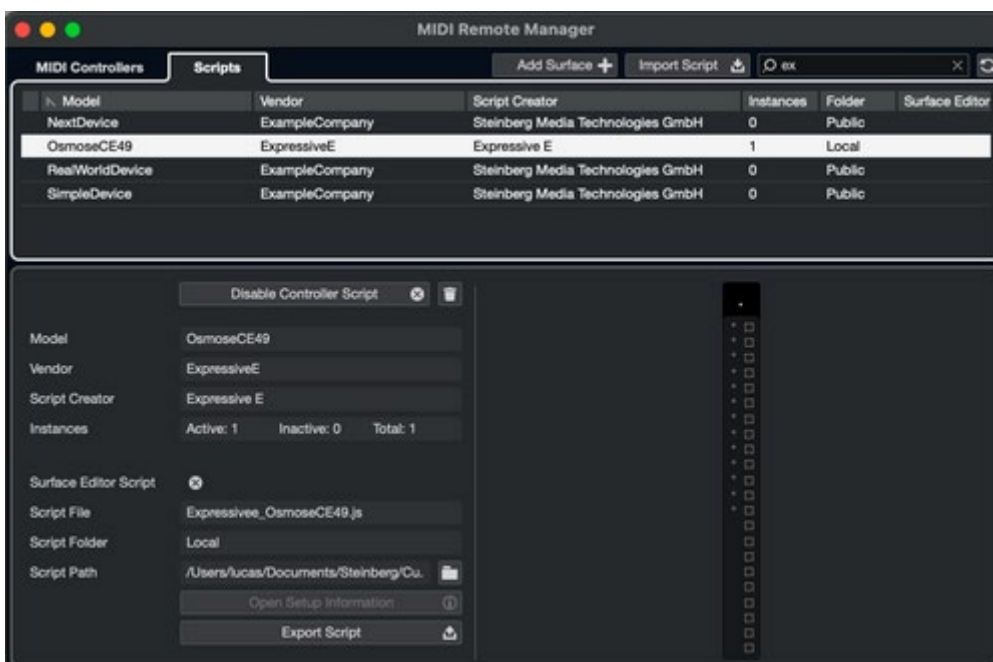


- 表示されるドロップダウン メニューから次の値を選択します。
  - ベンダー → **ExpressiveE**
  - モデル → **OsmoseCE49 / OsmoseCE61**
  - MIDI ポート > 入力ポート:
    - macOS:
      - Osmose CE 49 → **Osmose CE 49 daw control**
      - Osmose CE 61 → **Osmose CE 61 daw control**
    - Windows:
      - Osmose CE 49 → **MIDIIN3 (Osmose CE 49)**
      - Osmose CE 61 → **MIDIIN3 (Osmose CE 61)**
  - MIDI ポート > 出力ポート:
    - macOS:
      - Osmose CE 49 → **Osmose CE 49 daw control**
      - Osmose CE 61 → **Osmose CE 61 daw control**
    - Windows
      - Osmose CE 49 → **MIDOUT3 (Osmose CE 49)**
      - Osmose CE 61 → **MIDOUT3 (Osmose CE 61)**
- 「MIDI コントローラーサーフェスをアクティブにする」をクリックします。



場合によっては、スクリプトを再読み込みすることで問題が解決することもあります。手順は以下のとおりです。

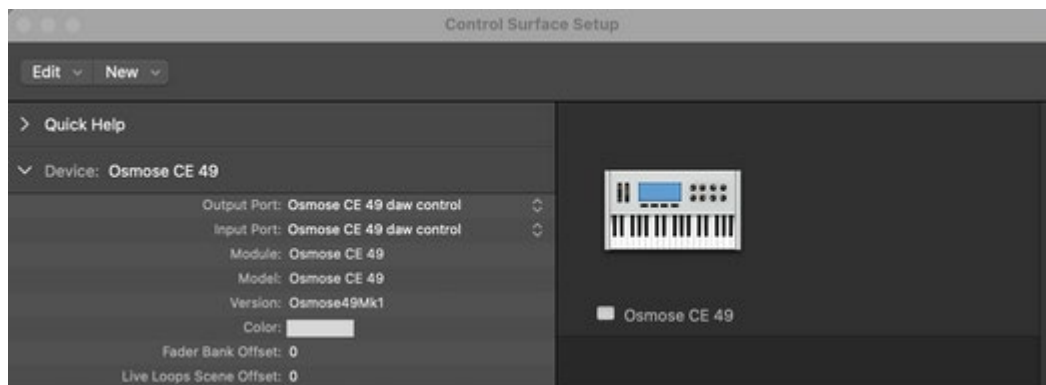
- 「スタジオ > MIDI リモートマネージャー」を開きます。
- 「MIDI リモートマネージャー」ウィンドウが開きます。
- 「MIDI コントローラー」タブで Osomose CE を選択するか、「スクリプト」タブで統合スクリプトを選択します。
- ウィンドウ右上隅にある「スクリプトを再読み込み」ボタン(二重矢印アイコン)をクリックします。



## logic pro

Logic Pro で Osmose CE と Logic Pro 間の DAW コントロールモード通信を手動で有効化するには:

- 「Logic Pro > コントロールサーフェス > 設定…」を選択します。
- 「コントロールサーフェス設定」ウィンドウが開きます。
- デバイスリストに Osmose CE が表示されている場合:
  - Osmose CE をクリックし、「出力ポート」と「入力ポート」の両方が DAW コントロールポートに設定されていることを確認します。
- デバイスリストに Osmose CE が表示されていない場合:
  - 「新規 > インストール…」をクリックします(スキャン機能は使用しないでください!)
  - デバイスリストから Osmose CE を選択し、「追加」ボタンをクリックします。
  - 「出力ポート」と「入力ポート」の両方が DAW コントロールポートに設定されていることを確認します。



- 次に、「コントロール サーフェス > 設定…」に進み、Osmose CE デバイスの「自動」ボックスにチェックを入れます。

場合によっては、スクリプトを再読み込みすると問題が解決することもあります。そのためには、「Logic Pro > コントロール サーフェス > 既定の設定を再構築」をクリックしてください。

## トラブルシューティングに関するナレッジベース

技術的な問題が発生した場合は、まずオンラインナレッジベースで解決策を検索してください。それでも解決しない場合は、[弊社サポート](#)までご相談ください。

[弊社サポートページ](#)

下記、メーカーのナレッジベースもご参照ください。

[Osmose オンラインナレッジベース - 技術的な問題](#)

